

# 平成27年度 ケア付き青森ねぶた じょっぱい隊 ボランティア活動報告



青森県立保健大学 地域連携・国際センター  
ケア付きねぶた推進委員会

## 目 次

|                        |      |
|------------------------|------|
| ケア付き青森ねぶたの紹介、実行委員会との共催 | P 1  |
| ボランティア活動 準備編           | P 3  |
| ボランティア活動 当日編           | P 6  |
| ボランティア活動 後編            | P 10 |
| 学生の思い・学び               | P 12 |
| ケア付きねぶた推進委員会活動概要       | P 43 |

<報告書の刊行に寄せて>

青森県立保健大学 ケア付きねぶた推進委員会  
委員長 出雲 祐二

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”は、日本の大祭の1つである青森ねぶた祭りに、ケアを必要とする高齢者や障害者が車椅子のまま参加できるよう、保健・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって運行されています。今年も8月3日の青森ねぶた運行の日に、全国から集まった29名の障害者や高齢者が、数百名のボランティアとともに、車椅子に乗って運行に参加しました。

“じょっぱり隊”が結成されたのは平成8年で、紙屋克子氏（現・筑波大学名誉教授）の呼びかけに青森県内の高齢者総合施設、清風荘の長根祐子氏が呼応して実現しました。車椅子の方が実際に運行に参加するまでのプロセスには、事故の心配や障害者への無理解などの障壁が立ちはだかったそうですが、「さまざまな障害によって、介護が必要でも、車椅子を利用していても、祭りの渦に溶け込むことは、同じように障害を抱えている人、そこに関わる人に勇気を与えるに違いないと確信し、実行することに決めた。」と長根氏は語られています。

その“じょっぱり隊”は今年で20周年を迎えました。青森県立保健大学は平成20年度から共催団体として関わり、今年は学生83名と教職員29名がボランティアとして運行に参加しました。また、今年度からはこの活動の学内組織をそれまでの部会組織から学内委員会へと昇格させ、全学的な取り組みとして支援を行いました。

祭りにはそこに参加する者に膨大な時間とエネルギーが求められます。ケア付きねぶた推進委員会では4月から打合せと会議を重ね、本部の“じょっぱり隊”実行委員会との調整会議に参加し、学生ボランティアを募集し、彼らに対してボランティア講座と運行当日のオリエンテーションを行い、そしてようやく運行当日を迎えました。運行当日も100人以上の学生と教職員が、全体を盛り上げる歯車となって各部署で活動するので、最後まで気が抜けません。

私も1人のボランティアとして運行班の幟持ちとして運行に参加しました。運行は花火の音を合図に、低い太鼓の音と活気ある囃子方の旋律から始まります。それに「ラッセラー、ラッセラー」の掛け声が次第に大合唱となって木霊して行きます。初めは恥ずかしそうに踊っていた跳人の学生たちも、次第に大きく羽ばたくように、大胆にのびやかに踊り出します。ふと車椅子の参加者の皆さんを見ると、その表情は喜びに溢れ、体全体でリズムを取っている方もいられます。沿道の観客からは大きな歓声と拍手が起こり、祭りの高揚感が全員を包み込んでいきます。普段は自分を強く意識する私たちに、自我の崩壊現象ともいべき事態が起き、そこでは普段の「私」が消え去り、祭の中に一体化していきます。おそらく祭りに参加する高揚とはこうした一体感にあるのかもしれない。そしてそれが関わる人たちに勇気を与えるのだと思います。

この報告書では参加した学生の様々な気持ちが語られています。しかしそれは彼らが日常から一歩踏み出し、ボランティアというリスクを取ろうとしたからこそ得られたものだと考えます。リスクと取ること、リスクに挑戦しようとすることは、ケア付きねぶたの精神であり、また日常の安全や安心の対極にある人間の普遍的コードではないでしょうか。

最後に、こうした活動の機会を本学の学生と教職員に与えてくださった“じょっぱり隊”実行委員会の皆さまに感謝申し上げますとともに、がんばってくださった本学の学生さんと教職員の皆さまに、心からお礼申し上げます。

本学がケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のボランティア活動に積極的に取り組んで7年目となります。今年は学長を顧問とし、教職員 12 名の委員で構成されるケア付きねぶた推進委員会が発足しました。チームで取り組んだ平成 27 年度のボランティア活動を報告いたします。

## ケア付き青森ねぶたの紹介

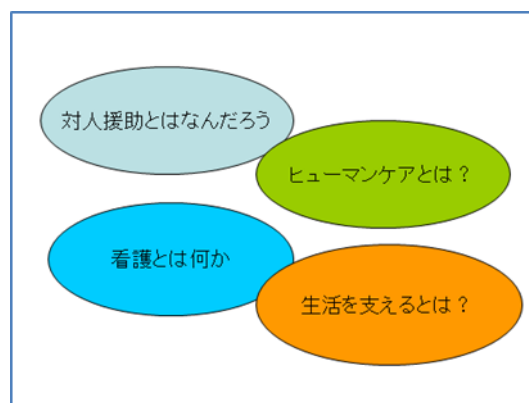
1 年生が入学すると、4 月に開講される 4 学科合同授業「健康科学概論」の中で、ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の活動について紹介します。これから専門職としての知識や技能を学んでいく学生にとって、この活動を知ることがヒューマンケアを模索する上での原動力になると考えているからです。そして、ボランティア活動の実体験を通して、人として専門職として成長する貴重な機会につながることを願い、ケア付き青森ねぶたの活動を紹介しています。

近年では、本学がケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のボランティア活動を積極的に支援していることを、入学前から知っている学生が増えてきました。そのような学生は、目的意識を持って楽しみにボランティア活動に参加しているようです。また、はじめて知ったという学生も、興味関心を持つ学生が多いようです。

**ヒューマンケアを提供できる人材育成**

ケアつきねぶたへのボランティア活動を通して、専門職としての知識や技術のみではなく、人間とは何かということに思いを巡らせ、病気や障害を持つ人々の心を感じ取り、人に対して思いやりと温かさを持って接することができるようになって欲しい。感動を味わい感性を磨くことで自分を育てて欲しい、と願っています。

学長 リボウイツ・よし子  
平成21年12月1日 公立大学協会60周年 記念シンポジウム  
「障害者ねぶた」へのボランティア活動を通しての教育 より



## ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊 実行委員会との共催

ケア付き青森ねぶたは平成 8 年から始まり、全国から参加者を募り年齢や障害の枠を超え青森ねぶたに車いすのままに参加できるよう保健・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって運行され、これまで毎年本学教職員数十名及び相当数の学生がボランティア参加してきています。保健・医療・福祉の専門職を志す本学の学生にとって、ケア付き青森ねぶたに参加し障害者や高齢者との交流及び介助を行うことは、貴重な体験であり極めて学習の意義があります。

このため、本学では平成 20 年度から大学組織として協力しています。地域連携科事業としてボランティア養成講座を開催し、ヒューマンケア（保健医療福祉）特殊講義Ⅰの単位認定科目とするとともに、学生がより積極的にボランティア活動を行うことができる環境を整えています。

平成 25 年度からは、学部協力のもと、ボランティア活動日及び報告会についても、ヒューマンケア（保健医療福祉）特殊講義Ⅱとして単位認定しています。



## ボランティア活動 準備編

### 6月5日（金）：第1回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成27年6月5日（金）

9時30分～10時20分

場 所：B110教室

参加学生：87名

内 容：講演・体験発表

① 講演

「ボランティアとは」

講師：社会福祉学科 杉山克己 教授

② 体験発表

発表者：6名（運行班・食料班・設営班）

昨年までの体験内容と感想、今年参加する学生へのアドバイス等を伺いました。

ボランティアの基本的な姿勢・心構え、じょっぱり隊の具体的活動内容等について理解を深めました。



平成27年度 第1回 ボランティア養成講座 参加学生数

|        | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 計  |
|--------|-----|-----|-----|-----|----|
| 看護学科   | 40  | 2   | 3   | 0   | 45 |
| 理学療法学科 | 9   | 0   | 0   | 0   | 9  |
| 社会福祉学科 | 24  | 0   | 1   | 0   | 25 |
| 栄養学科   | 6   | 2   | 0   | 0   | 8  |
| 計      | 79  | 4   | 4   | 0   | 87 |

### 7月18日（土）：第2回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成27年7月18日（土）10時～11時

場 所：A111教室

テーマ：「ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の活動結果」

講 師：伊藤彩乃 氏、成田彩也香 氏（高齢者総合福祉施設清風荘）他

参加学生：102名

ケア付き青森ねぶたの歴史や取り組み、ねぶた参加者の想いを知ることができ、みんなでじょっぱり隊を盛り上げていこうという意欲につながりました。また、養成講座終了後、じょっぱり隊参加についてのオリエンテーションを実施しました。



## 平成 27 年度 第 2 回 ボランティア養成講座 参加学生数

|        | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 計   |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 看護学科   | 42  | 3   | 0   | 0   | 45  |
| 理学療法学科 | 6   | 1   | 0   | 1   | 8   |
| 社会福祉学科 | 30  | 0   | 2   | 0   | 32  |
| 栄養学科   | 8   | 9   | 0   | 0   | 17  |
| 計      | 86  | 13  | 2   | 1   | 102 |

### ボランティア募集 5月23日（土）～

第1回ボランティア養成講座実施前にチラシ配布や学内ポスター掲示などを行い、ボランティア募集を開始しました。全教職員に対して教職員ポータルサイトで周知をした他、教職員会議で参加を呼びかけたり、ケア付きねぶた推進委員会からボランティア参加の案内をしました。7月10日（金）のボランティア募集締切り時には、学生約80名、教職員約30名の申し込みがありました。

### ボランティアのしおり作成

ボランティア学生が不安なく活動に臨めるよう、7月頃から大学独自のボランティアのしおり作成に取り掛かりました。前年度に作成したしおりを元に、実行委員会より報告された変更点や、昨年度の反省を生かし、全体スケジュールや班ごとの心得・動きについて修正・加筆し完成となり、7月18日のオリエンテーションで学生ボランティアに配布しました。

### ボランティア オリエンテーション 7月18日（土）

7月18日（土）11時～12時に、A棟1階 A110教室で学生ボランティアを対象としたオリエンテーションを行いました。ここでは、ボランティアのしおりを全員に配布し、内容について説明するとともに、活動前に必ずすべてに目を通すよう学生にお願いしました。その他、班分け（暫定）の確認や、班ごとの役割の確認、各班の学生リーダーの選出、ヤフーメールの使用について説明しました。ハネト班の学生は、昨年参加した学生とオリジナル振付の練習をしました。

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”実行委員会のスタッフの方々にも助言をいただき、本番へ向け、活動のイメージをつくることができました。



## ボランティア直前説明会 7月31日(金)・8月2日(日)

昨年度に引き続き、教職員と学生ボランティアへのオリエンテーションを、日時を変えて別々に実施しました。教職員には7月31日(金)12時～12時30分にC棟2階N講義室1で行い、学生には前期試験が終了した8月2日(日)10時30分～12時にA棟3階A305教室で行いました。

全体の流れ、バス乗車時間について、また、それぞれの役割および留意点について説明をしました。実行委員会からいただいた“じょっぱり隊ポケットガイド”を学生と教職員に配布しました。

学生ボランティアのオリエンテーションでは、最終的なスケジュール確認や伝達事項の説明を行い、その後、班ごとに分かれて打ち合わせを行いました。ボランティア活動を翌日に控え、真剣な面持ちで臨んでいました。ハネトは車椅子の操作方法についての実演や、大学オリジナル振り付けや隊列、着付について教職員から説明を受けて練習をしました。初めてのハネト経験に戸惑う学生もいましたが次第に慣れてきて、全員元気で、生き生きとした表情で練習に取り組んでいました。また、プライマリー・ケアを担当する学生には、担当する参加者情報を伝えました。このことにより、事前に身体状況や生活状況をアセスメントして当日を迎えることができました。

## 医師・看護師の派遣

ケア付き青森ねぶた実行委員会では、医療班、ケア班の医師・看護師の確保に毎年尽力しています。しかし、各医療機関でも医師・看護師不足である昨今、ボランティア協力もままならないのが現状のようです。

そこで、実行委員会からの要望により、本学の教員が医師・看護師として協力しています。今年度は、医師として渡部一郎教授(理学療法学科)、看護師として角濱春美教授(看護学科)と金野将也助手(看護学科)にご協力いただきました。



## 定例記者発表 7月29日(水)

本学が開催する定例記者発表で、ケア付き青森ねぶた出陣について記者の方々にPRしました。ボランティア養成講座を実施して学生ボランティアを募っていることや、この時点でのボランティア参加学生・教職員数を発表しました。



## ボランティア 当日編（8月3日）

### 運行班

運行班の学生は教員とともに 7 時半に大学を出発し、県民福祉プラザに向かいました。その後、ボランティア決起大会、参加者お出迎え、アトラクション、結団式に参加しました。昼食では参加者やその付添いの皆さんと交流し、ハネト衣装への着替えをすませ、プラザ内の 4 階県民ホールの舞台上でオリジナル振付や隊列の最終チェックを行い、青い森公園に移動しました。公園では、本学学生サークルの発表で盛り上がり、全体での写真撮影をし、軽食を取るなど準備の時間を過ごしました。花笠を着用し、参加者の方の車椅子の車輪カバーを装着し、片側 3 車線の国道へ出て、隊列を整え、「出陣」となりました。多くの観客の視線もあり、何とも言えない緊張感に包まれました。運行がスタートしてからは、参加者や付添いの家族の方々、周囲の観客と一体となって熱気を共有することができました。ハネトや給水係の学生は、運行中はほぼ体力勝負でしたが、若い力がいかに発揮されたと思います。参加者とともにいた付添い係は、参加者やその家族との交流を通じて、さまざまなことを学べたようです。



### 備品班

備品班の主な仕事は、参加者の荷物と衣装の受け渡しをすることでした。簡単な作業のようにも思えますが、間違いなく預かった荷物をお返しするまでは責任を伴う仕事です。午前中には受け渡しの練習、祭り終了後は受け渡しで混乱しないように荷物の置き方を工夫する様子も見られました。地味な裏方仕事でしたが、学生たちはみなで声を掛け合いながら頑張りました。



## 食料班

食料班には9名の2年生、5名の1年生、2名の教員が参加しました。主な仕事として、午前中はカレー作り、昼食時間はカレーの提供を行い、午後からは唐揚げ、そうめん、おにぎり作り、青い森公園でのおにぎり配布や、運行から帰ってきた方々への打上げ料理の盛り付けを行いました。学生の皆さんは終日の立ち仕事でヘトヘトになりながらも、清風荘で嚙下食を作っていた卒業生の先輩とともに、イキイキと裏方仕事を頑張っていました。



## 設営班

設営班の仕事は、イベントが楽しく、スムーズに進むよう、福祉プラザにおける昼食後の着替え会場の設営、青い森公園における大型テントの設営が主な仕事でした。学生は助け合いながら、仕事を続けました。疲れた表情も見せず、作業を行っていました。最後は、テントなどを片付けて、運行から戻ってきた皆のため、参加者に飲み物や食べ物を配る作業を行いました。設営班の学生の中には、じょっぱり隊ベテランボランティアもいましたので、仕事は非常にスムーズに進みました。学生が笑顔で参加者のために頑張った姿が印象に残っています。



## 医療班

大学からは、医師の資格を持つ教員1名と、看護師の資格を持つ2名が参加しました。参加者を1名担当し、診察の付き添いや食事、着替えや体位の調整を行いました。運行では参加者全体の体調管理を行いました。学生ボランティアが積極的に参加者とコミュニケーションを取り、必要な時に医療班に相談してくれたので、事故なく楽しいねぶた参加になったのではないかと感じました。

## サークル発表

前期試験終了直後で練習時間の確保も大変な中、昨年度に引き続き、吹奏楽サークルが発表を引き受けてくれたのに加え、今年度は書道サークルも発表を引き受けてくれました。参加者やボランティアの皆さんがねぶた衣装に着替え、続々と青い森公園に到着した後、出陣までの時間を使って、吹奏楽サークルの素敵な演奏と、書道サークルのパフォーマンスで盛り上げてくれました。





## ボランティア参加者数の推移（人）

|          | 学生 | 教職員 | 計   |
|----------|----|-----|-----|
| 平成 20 年度 | 49 | 8   | 57  |
| 平成 21 年度 | 82 | 8   | 90  |
| 平成 22 年度 | 38 | 16  | 54  |
| 平成 23 年度 | 72 | 23  | 95  |
| 平成 24 年度 | 67 | 29  | 96  |
| 平成 25 年度 | 67 | 32  | 99  |
| 平成 26 年度 | 66 | 34  | 100 |
| 平成 27 年度 | 83 | 29  | 112 |

## ボランティア活動内容

| 種類                            | 主な役割   |
|-------------------------------|--|
| <b>運行班</b><br>通称: 熱く燃え隊       | ねぶた運行の練習や本番で、隊の中心として指揮をとる役割。また、参加者と共に、ハネトとして車椅子を押して参加する役割をします。 |
| <b>医療班</b><br>通称: 命預け隊        | 事前に、参加者の健康チェック・バイタル測定をし、安心して参加できるよう目配りをする役割をします。               |
| <b>ケア班(班担当班)</b><br>通称: 仲良くし隊 | 衣装の着付け時や車両に乗車時等、参加者やボランティアの皆様を誘導する役割をします。                      |
| <b>食料班</b><br>通称: ごちそうし隊      | 皆様の食事、昼食や打ち上げの食事準備やテーブルセッティング、配膳等の役割をします。                      |
| <b>備品班</b><br>通称: なんでも揃え隊     | ねぶたの衣装や参加者の所持品、荷物等の管理・引渡しをします。                                 |
| <b>設営班</b><br>通称: 重いもの持ち隊     | 待機会場の設営、および会場内での誘導等の役割をします。                                    |
| <b>着付け班</b><br>通称: 上手に着せ隊     | 参加者やハネトボランティアに、ねぶた衣装の着付けをお手伝いします。                              |

## ボランティア活動後 編

### 活動を振り返る会 8月4日(火)

ケア付き青森ねぶたでのボランティア体験を自分だけのもの納得させてしまうのではなく、そこで生じた疑問やうまくできたこと、できなかったこと、何のためにやっていたのかわからなかったこと、感動したことなど、体験したすべてに対して参加した学生みんなまで共有し、意味づけをすることで今後のボランティア活動を発展させたいというのが本会のねらいです。

今年度も、ねぶた運行ボランティア翌日の開催となりました。前日の疲労が残る中、83名中27名の参加(33名参加予定も当日欠席6名)がありました。グループ編成はグループ内に運行班、備品班、食料班、設営班のメンバーが偏らないように配置し、10～11人編成3グループとしました。グループワークの視点は、①各班の活動内容を踏まえたポジティブな面とネガティブな面の抽出、②活動を通して感じたボランティア参加のメリット・デメリット、③ボランティア活動を通して挙げた問題点に対するその場での対処策と今後に向けた対応策、としました。80分程度のグループワークの後、作成した資料をもとに各グループの発表と意見交換を行いました。

発表では、積極性に関することや相互コミュニケーションに関する反省等が挙げられましたが、最も印象に残った言葉に、“ヒューマンケアは人と交わる前から始まっている。今回それを捉えることができた。”と、いうものがありました。参加者さんやボランティアメンバーと良いコミュニケーションを取って、積極的に行動するだけがボランティア活動ではないということを理解してもらえたように感じ、非常に嬉しく思いました。

最後に、ケア付きねぶたボランティア活動に4年間ずっと参加した学生から、4年間関わった感想と今回ボランティア参加した1～2年生へのエールを頂きました。次年度も参加してくれる学生がこの中から出てくることを願っています。





# Press Release



報道関係者各位

平成 27 年 7 月 29 日  
青森県立保健大学

## 第 20 回ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊” 8 月 3 日（月）出陣

### I. ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”の活動は、今年度で 20 周年を迎えます。年齢や障害の枠を超え日本の火祭り“青森ねぶた”に誰もが自分らしく祭りを楽しめるように、介護・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって、全国の障害のある方々のねぶたへの参加を支援します。

第 20 回テーマ『ささえあい・みつめあい・たすけあい たくさんの愛をありがとう』ケア付き青森ねぶた じょっぱり隊 20 周年に感謝！

出陣：8 月 3 日（月）

主催：ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊実行委員会

共催：青森県立保健大学

### II. ボランティア養成講座

本学では、ケア付き青森ねぶたに参加する学生に、ボランティア養成講座（全 2 回）を受講してもらいます。本講座は保健医療福祉（ヒューマンケア）特殊講義Ⅰの単位認定講座とし、大学をあげてボランティア活動をサポートしています。

ボランティアマインドを有する学生が多い本学ですが、いざ行動となると、少しの運氣ときっかけ、知識が必要です。そのために、ボランティアとは何か、ケア付きねぶたの活動概要・意義やねぶたの文化や伝統などについて学びます。

第 1 回 6 月 5 日（金）、第 2 回 7 月 18 日（土）

### III. 本学のボランティア参加者

学生ボランティア 85 名、教職員 31 人、合計 116 名が参加します。学生ボランティアが事故なく活動できるよう教職員 12 名で構成する委員会を今年度新たに設置し、強力にサポートしています。

### IV. サークル発表

出陣前の待機時間（1600～1700 頃）、青い森公園で、吹奏楽サークルの演奏と、書道サークルのパフォーマンスを予定しています。

### V. プライマリーケア

平成 24 年度から引き続き、プライマリーケアを実施します。参加者（障害者）、付添いのご家族、ボランティア経験者、本学学生ボランティア（運行班 30 名）がチームとなり、参加者の情報を共有し、参加者をあらゆる角度から見守ります。

チームは、参加者の到着（10：00）から解散（21：00）まで共に行動します。参加者は様々な疾患があるため、学生ボランティアはあらかじめ参加者の疾患に関する情報を学習して臨みます。

問い合わせ\*\*\*\*\*

青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館町 58-1

TEL:017-765-4085 FAX:017-765-2021

担当：ケア付きねぶた推進委員会委員長 出雲 祐二

事務局地域連携推進課 佐藤 知恵子

\*\*\*\*\*

# 学生の思い・学び

## ボランティア申込み時の学生の思い(申込み順)

| 学 科  | 学年 | コメント  |
|------|----|---|
| 看護   | 1  | 指示を待つのではなく自主的な行動を心がけたいです。病気や障害のある方との関わり方を学びたいと思います。   |
| 看護   | 1  | 私が今回ケア付きねぶたじょっぱり隊に参加したいと思った理由は実際に体が悪くねぶた祭りに参加できないような方々を補助し、一緒にねぶた祭りに参加することで少しでもその方の力になりたいと思いました。また一緒にねぶた祭りの楽しさを共有しあいたいと思い、運行班を希望しました。ボランティアで活動する際はただ言われたことだけを行うのではなく、自主的にも行動し、少しでもこのケア付きねぶたボランティアに貢献したいと思います。 |
| 栄養   | 1  | ボランティア活動を通して、主体的に行動することを学びたい。   |
| 栄養   | 1  | 自分から進んでボランティアに参加することが少なかったので、このボランティアを通して、主体的に行動していけるようになることが目標です。ねぶた祭りに参加したことがないので、不安もありますが、楽しめたらいいなと思います。   |
| 看護   | 3  | 高齢であること、障害を持ちながらも、ねぶた祭りに参加したいと思っている参加者さん方の楽しい思い出作りや元気になれるお手伝いがしたい。自分が今まで学んできた、人との関わり方や、看護の知識と経験をこのボランティアに生かし、ねぶた祭りに参加して良かった、今日1日最高に楽しかったと思ってもらえるような活動と関わりができればと思う。  |
| 社会福祉 | 1  | 私は将来障害者に関わる仕事に携わりたいと考えています。ねぶたに参加し、運行班で直接対象者の方と関わることはとても良い機会だと思います。また、私は県外出身なのでねぶた自体を見たことがないので、自分も楽しみつつ、対象者の方にも楽しんでもらえるよう努めたいです。精一杯頑張ります。   |
| 社会福祉 | 1  | これまでの経験や授業で学習したことをできるだけ活かしたい。お祭り自体初めてなので多くのことを知って吸収したい。   |
| 社会福祉 | 1  | 私は青森県民ですが八戸市に住んでいたため、ねぶた祭りに参加したことがありませんでした。今回のじょっぱり隊に参加することでやりたかったボランティア活動と他学科とのふれあい、青森文化の理解ができることをとても嬉しく思います。できればハネトとしてお祭りに参加者の方々を盛り上げたいです！  |

| 学 科  | 学年 | コメント   |
|------|----|--|
| 理学療法 | 1  | 単位など関係なく、純粋に「はねたい」という気持ち。そして多くの人と連携して1つのことを成し遂げること、多くの人への支えになること、そして笑顔を作ってあげたいからです。先輩の話を聞いて辛いこともあるけど、それ以上の喜びがあることを知りました。それを実際に体験してみたいです。 |
| 理学療法 | 1  | ボランティアをすることでみんなの役に立てると思うので、参加する人が楽しめるように頑張りたいです。   |
| 社会福祉 | 1  | 県内出身ですが、ねぶたを実際に見たことも（生で）体験したこともなかったなので、この機会に、初めてのねぶたを楽しみつつ、他学年や地域の人たちと協力できたらなと思っています！  |
| 看護   | 1  | ボランティアを通して、人間性を高め、将来「対人支援職」に就いたときに生かしていきたいと思う。青森県だからこそできる“ねぶた”で地域をもっと活性化させていけるように貢献したいと思っている。  |
| 看護   | 3  | 1年、2年の時も運行班として活動し、今年で3年目になります。1年生の時はよく分からないままやっていたのですが、去年はその経験を活かして行動できたと思います。今年は運行班の活動を支え、参加者の方々との良い思い出作りをしたいです。よろしくお願いします。             |
| 看護   | 1  | 今までは部活でボランティアに参加できなかったのが挑戦したいと思った。青森で有名な青森ねぶたを通して、地域の人やねぶたに参加した人と交流をはかりたい。   |
| 栄養   | 2  | 昨年も食料班として参加した。じょっぱり隊に参加する方々やそれをサポートする方々を食事面からサポートできるように頑張りたい。  |
| 栄養   | 2  | 去年参加した経験をいかして、今年もサポート等頑張ります！   |
| 理学療法 | 1  | 将来医療従事者になる上で、今回のケア付きねぶたを通して学べるのがたくさんあると思う。勉強だけではわからないことを体感しながらねぶたに参加していきたい。  |
| 栄養   | 1  | これまで、そんなにボランティアに参加したことがなかったので、積極的にかつ、冷静に臨みたい。  |
| 看護   | 2  | 今年で3年目なので、スムーズに進むように頑張りたいと思います。みんなが楽しめるようにサポートしたいと思います。  |
| 看護   | 2  | 今まであまりボランティアの経験がありませんが、いろいろ挑戦していきたいなと考えていました。昨年は用事があり参加できませんでしたが、今年は参加したいと思っていました。様々な人たちと交流して、楽しみながらねぶたに参加したいです。                         |
| 栄養   | 2  | 裏方に回って、ハネトの人たちや、他のグループの人たちを支援したいです。  |



| 学 科  | 学年 | コメント   |
|------|----|--|
| 栄養   | 2  | 食事面での支援によって、少しでもみなさんの役に立てるようにがんばりたいと思っています。  |
| 社会福祉 | 1  | 私は、秋田県出身者でねぶた祭りに一度も参加したことがありません。ねぶた祭りがどのような祭りなのか興味があり、ボランティアに参加したいと思いました。大変なこともあると思いますが、みんなで一緒に盛り上げられるように頑張ります。  |
| 社会福祉 | 1  | 今までねぶたと言えば、友達と参加していました。しかし今回はケアが必要な方々と共に参加することになります。気配りや心配りを行いながらケア付きねぶたじょっぱり隊がスムーズに出陣できるよう努力したいと思います。自分が楽しむことで相手を楽しませることを忘れずに、ボランティア活動を行うのが目標です。参加された方が口に出さなくても「参加して良かった！」と思ってもらえるように全力で取り組みます！！  |
| 社会福祉 | 1  | じょっぱり隊への参加は私が保健大学を志望する理由の一つでした。じょっぱり隊の「障害があっても高齢となっても、自分の気持ちを主張し続けて欲しい」という志しに惚れ込んだからです。自分が楽しめなければ他者を楽しませることはできないと思っているので、私も参加者の方々と一緒に楽しみながらサポートをしていけたらいいな、と思っています。また、他の学科と連携しながら他者をサポートし、楽しませることは、対人支援職を目指す者として素晴らしい機会であり、ねぶたは青森を代表する祭りなので、青森県民として誇らしいことである、と思っているので、活動に精一杯励みたいです。 |
| 看護   | 3  | 実習などいろんな方に接し、関わり方が違って、どうやってかかわればよい関係を築けるかを学んだ。それをボランティアにも生かしていきたい。   |
| 看護   | 1  | 私は札幌市出身で、ねぶたというのを経験したことも見たこともないのでぜひ参加したいと思いました。せっかく参加するなら持ち前の明るさや自分らしい笑顔を発揮できるような仕事をしたいと思い運行班を希望します！！じょっぱり隊を最前線で盛り上げて、参加者のみなさんとたのしめるような熱い活動をしたいと思っています！！ハネトとか経験するのもはじめてですし、わからないことがたくさんありますが、元気いっぱいねられる自信はあります！！じょっぱり隊のみんなとたのしめるねぶたにしたいです！   |
| 社会福祉 | 1  | 青森市は私の地元であるので、ねぶたにはよく参加しています。また、今年も参加するつもりです。去年までと同様に参加するのもいいと思うが、せっかくの良い機会を逃がしたくないと思い、参加することを決めました。今後活かせるよう、実りのある経験にしたいと思います。   |

| 学 科  | 学年 | コメント   |
|------|----|--|
| 看護   | 3  | 今までの実習や授業を通して学んだことを活かして、障がいのある方への援助をこのケア付きねぶたを通して実施していきたいと思う。また、このボランティアからも新たな気づきができれば良いなと思う。                                |
| 看護   | 1  | 盛り上げていきたいです！   |
| 看護   | 1  | ケア付きねぶたを通して様々な人と一緒にねぶたを楽しみたいです。その中でどういう接し方やどういうお手伝いをする必要があるかも学んでいきたいです。  |
| 社会福祉 | 1  | 今回が初めての参加で慣れないこともたくさんあるかもしれないが、失敗などを次の活動に生かせるように、常に学びながらボランティア活動に貢献したい。  |
| 社会福祉 | 1  | 青森ねぶたをあまり見たことが無いので、ボランティアをしながら楽しい時間を過ごしたい。   |
| 社会福祉 | 1  | どのような人でも楽しめられるような活動にしたい。   |
| 社会福祉 | 1  | 八戸市出身なので、ねぶたを見たことはあっても実際に中に入って参加したことはありませんでした。ぜひこの機会を活用してねぶたを熱く盛り上げたいと考えています！また青森についても深く知る機会になればいいなと思います。                    |
| 社会福祉 | 1  | 青森県外出身なので、ねぶたに参加してみたいと思っていたのでこの機会を利用してねぶたの事をもっと知りたいと思っています。また、車椅子の方とも交流しながら参加できるということなので、車椅子の方にも楽しんでもらえるように頑張りたいです。          |
| 社会福祉 | 1  | 地元の祭りですが、何年か参加していません。ねぶた祭りを違った角度で楽しめるということで、わくわくしています。参加者を支える参加者になりたいと思います。  |
| 看護   | 1  | 多くの人との出会い、コミュニケーションを通じて自分の将来に繋がる経験にしたいです。  |
| 社会福祉 | 1  | 社会福祉学科なので、このような機会はなかなかなく、ぜひ参加したいと思っていました。精一杯力になれるようがんばります。   |
| 栄養   | 1  | 高校生の頃からじょっぱり隊の活動を知っていて、参加してみたいとずっと思っていました。ボランティア活動も今までにたくさん参加してきたので、これからも続けていきたいと思っています。だからこそ、じょっぱり隊に参加して、また多くの経験を積んでいきたいです。 |
| 栄養   | 2  | 机の上で学んできた「ヒューマンケア」の概念を、現場にてより深く学んでいきたいと思っています。   |
| 栄養   | 2  | 昨年も参加してやりがいを感じたので、今年もがんばりたいと思います。  |

| 学 科  | 学年 | コメント  |
|------|----|---|
| 社会福祉 | 1  | 私は山形県出身です。青森のねぶた祭りがどのようなものなのか、いまいちイメージができないのが今の本音です。だからこそ、今回のねぶた祭りに参加して参加者や障がいのある方と一体になって楽しみたい！！と思い、このボランティアに申し込みました。そして、せっかく県外から青森の大学に進学したので、青森県の魅力であるねぶた祭りに参加しなかったらもったいない！！と思います。このボランティアを通して第2の故郷、青森県をもっと好きになって帰ってきたいと思います！！ |
| 栄養   | 2  | 去年参加できなかったのが今年こそは！  |
| 栄養   | 1  | 保健大生としての自覚をもって行動し、沢山の人が楽しめる青森ねぶたにできるよう頑張ります。初ねぶたを思いっきり楽しみたいです。  |
| 栄養   | 1  | 入学当初からケア付きねぶたの活動にはぜひ参加したいと思っていました。ねぶたは青森にしかないものなので、参加することで青森の文化に触れてみたいと思います。また、ボランティアに参加し、他学科の人や地域の方々などともたくさん交流をしたいと思います。   |
| 看護   | 1  | 私はケア付きねぶたの活動を通じて、参加者の方と積極的にコミュニケーションを図り、相手に楽しんでもらうことを目標に頑張りたいです。  |
| 看護   | 1  | ボランティアを通して授業では学べない知識や経験を得て生かせるようにしたいです。自分にできることを全力で行い、多くの方々と楽しみたいと思います。   |
| 看護   | 1  | 初めてボランティアに参加しますが、少しでも人の役に立てばいいと考えています。楽しんでやりたいです。   |
| 社会福祉 | 1  | 多くの人とふれあい交流しながら、「皆でやりとえる」ことの大変さ、すばらしさを体感し、自分の糧にしたい。健常者でない人と同じ空間で、一つのことによって一生懸命になってみたい。「青森らしさ」をじよっぱり隊の中で感じたい。  |
| 社会福祉 | 1  | 入学以前よりケア付きねぶたじよっぱり隊に興味をもっていました。利用者の方々とそのご家族の方々にねぶた祭りを楽しんでいただけるよう元気に積極的にお手伝いさせていただきたいです。よろしくお願ひ致します。   |
| 看護   | 1  | 私は、ケア付きねぶたを通して、たくさんの人と接し皆さんにねぶたの楽しさを伝えていきたいです。私は、青森市民で毎年ねぶた祭りに参加しているので、積極的に動いて皆さんと一緒に楽しみたいと考えています。  |
| 看護   | 1  | 「年齢や障害の枠を超え、誰もが自分らしく祭りを楽しめるように」行われているケア付き青森ねぶたじよっぱり隊に、私はずっと参加してみたいと思っていました。大変なこともたくさんあると思いますが、少しでもより楽しめるように精一杯頑張りたいと思っています。   |

| 学 科  | 学年 | コメント  |
|------|----|---|
| 栄養   | 2  | 初めてケア付きねぶたに参加させていただくので緊張しますが、協力して楽しくボランティアに参加し、“対人支援”について考えていきたいと思っています。  |
| 栄養   | 2  | 食事の提供をとおして、参加者さんがねぶたを楽しめるようにサポートしていきたい。   |
| 栄養   | 2  | 去年参加した人が楽しんでいる様子であったので参加したいと思いました。  |
| 看護   | 3  | 私は、今まで地域清掃等のボランティアに参加したことがあります。人を対象としたボランティアにも参加したいと思っていたのですが、中々そういった機会に恵まれませんでした。そんな中、保健大で行われるじょっぱり隊の話を聞き、是非参加したいと思い、応募しました。医療者の一員として、参加者のお役に立てるよう努めたいと思います。   |
| 社会福祉 | 1  | 出身が秋田なのですが、東北三大祭の1つであるねぶたまつりに参加できるのを光栄に思います。微力ながら、サポートを一生懸命やらせてもらいます。がんばりたいです。  |
| 看護   | 1  | 中学生の時、家族と青森を訪れねぶたを見てとても感動しました。それから青森が好きになりました。今回のじょっぱり隊に参加したのは、高校時代に行ったボランティアとは違う大学生らしい主体的に動くことを意識し、障害者の人と一緒に参加することで大変さも喜びも多くの事を経験し、感じたいと思ったからです。先輩方の話を聞くと、大変だったようでしたが、このような経験はおそらく保健大生しかできないので、がんばりつつ楽しみたいと思います。 |
| 社会福祉 | 1  | 初めての参加で不安ですが、自分ができることを精一杯やりたいと思います。   |
| 看護   | 1  | 私は青森市民であるので、ねぶた祭りを何年も楽しんできました。ケアすることによって、参加者の方にもねぶた祭りを楽しんでもらいたいと思います。また、ねぶた祭りを良く知る者として、じょっぱり隊を盛り上げていきたいとも思います。  |
| 看護   | 1  | ねぶたに参加したことがなく不安がありますが、参加者と一緒にはねととして参加し、ボランティアを通して何か勉強になればよいと考えています。   |
| 看護   | 1  | 障害のある方とコミュニケーションを取りながら楽しく安全に運行できればいいなと思います。また、今回の経験を将来にいかしたいと思っています。  |
| 社会福祉 | 1  | 私は青森県外の出身でねぶた祭りについてはあまり詳しくありませんが、多くの人にねぶた祭りを楽しんでもらうために貢献できたらと思い参加しました。  |

| 学 科  | 学年 | コメント   |
|------|----|--|
| 社会福祉 | 1  | 地元の祭りにボランティアをする立場として参加し、少しでも地元の皆さんの支えになればいいと思います。また、ボランティアを通して自分自身を成長させたいと考えています。  |
| 看護   | 1  | ボランティアとして、参加者の方と一緒に楽しみ、思い出に残るようなねぶたにしたいです。   |
| 栄養   | 1  | 県外出身で、ねぶた祭りに参加したことがなかったので、この大学で行っているじょっぱり隊にぜひ参加したいと思いました。この大学ならではのボランティアに参加し楽しみたいと思っています。  |
| 看護   | 1  | 大学生活を楽しみたいです。  |
| 社会福祉 | 1  | ねぶたに参加するのもはじめてなのでがんばりたいです！   |
| 社会福祉 | 1  | 自分のできることを精一杯やってがんばりたいです  |
| 看護   | 1  | 県外から来たので、是非、青森の伝統に触れたい。みんなで大きなことをやりとげた達成感を味わえたらと思います。  |
| 看護   | 1  | 私は県外出身であり、ねぶたがどのようなものか知らないので参加してみたいと思いました。青森の文化に触れながら、コミュニケーション能力を高められる活動だと思い、興味を持っています。   |
| 看護   | 1  | 初めてのねぶた楽しく安全に頑張りたいです!!   |
| 看護   | 1  | この大学に入ったら、ケア付きねぶたを是非やってみたいと思いました。大変だと聞くけれど、がんばりたいと思います。  |
| 看護   | 1  | 初めてのねぶた祭りに参加するので、ボランティアを含め、楽しみたいです。  |
| 看護   | 1  | 初めて青森に住んで、ねぶたを見たこともないので、ぜひねぶた祭りに参加したいです。そしてケア付きねぶたを通してたくさんの方々和交流しながら楽しみたいです。   |
| 社会福祉 | 1  | 初めてのねぶた祭りで不安もあるが、青森を代表する祭りと共に盛り上げていきたい。青森の分かにふれながら自分も楽しんでいきたい。   |
| 栄養   | 1  | 今回が初めての参加で勝手が分からないことも多くあると思うが、貢献できるよう、積極的に活動していきたい。  |
| 看護   | 2  | 昨年度、じょっぱり隊に初めて参加しました。様々な方と関わる機会があり、私自身勉強になることが数多くありました。また、当日の参加者全員が笑顔でねぶたを楽しんでいた姿に感動しました。なので今回も少しでも力になればいいなと思い、参加を希望します。青森のねぶたが好きなので、さらに盛り上げていきたいです。よろしく願いいたします。 |

| 学 科  | 学年 | コメント  |
|------|----|---|
| 看護   | 2  | 昨年もケア付き青森ねぶたじょっぱり隊に参加させていただきました。昨年、参加し、参加者の方とのふれあいを通して、様々なことを学ぶことができました。また、みんなで市内を跳ねまわった時は、一体感を感じ、じょっぱり隊の素晴らしさを感じることができました。今年も参加者の方が待ち望んでいるじょっぱり隊を素晴らしいものとし、参加者の方に喜んでもらえるよう、ボランティアさせていただきたいと思いました。私が担当した参加者の方は毎年参加していただいているので、今年もお会い出来たらうれしいです。 |
| 看護   | 1  | 入学前からパンフレットやホームページでケア付きねぶたを見て参加してみたいと興味がありました。まだ一度もボランティアの経験がなくて不安ですが少しでもお力になれば良いです。  |
| 看護   | 1  | 今までボランティア活動に参加したことがなく、いつかはしてみたいと思っていたので、運行班として精いっぱい頑張りたいです。   |
| 理学療法 | 4  | 1年生から3年生まで、毎年じょっぱり隊に参加してきました。4年生の今年も少しでも参加者の方が楽しく時間をすごせるよう、がんばりたいです。  |



## 第1回ボランティア養成講座参加後の感想抜粋

・ボランティアに参加する動機が曖昧であっても傍観ではなく実際に行動に移すことの重要性が分かった。また、参加・実際に行動に移すには、目的を持って相手が何を必要としているか、何ができるか、自分も参加メンバーの一員として主体的に考え行動する必要があると学んだ。

・私はこれまでいくつかのボランティア活動に参加してきました。今回の講演を聞いて、少なからず自分の利益のために参加していた部分も否定はできないと思いました。しかし、杉山先生も言っていたようにただ見ているだけで行動しない人よりも、目の前に困っている人がいたら手を差し伸べられるような人になりたいと思いました。また、これまで行ってきたボランティアは言われたことを言われたとおりに行うものが多かったのですが、今回のボランティアは自分で考えて行動できるようにしたいと思いました。参加者の方の疾病や病状は様々で目的も様々なのだということが昨年度参加学生による体験談発表でわかりました。しかし、参加者の皆さん共通するものはねぶたを楽しみたいという気持ちだと思うので、その思いが達成できるようにサポートしていきたいと思いました。

・今日の講座を聞いて、ボランティアとは何かについて、改めて理解を深めることができた。特にボランティアの利他性、利己性に強く関心を持った。そもそもボランティアとは古典的には利他性が基本的性格の一つであるが、最近では、何かもらえる、単位が取れるなど、利己性が強くなっている現状がある。個人的には利己性もあってはならないわけではないが、やるからには他人のことを思いやり、利他性をも含めて行うのが当然と考える。

・ボランティアについて、私も「偽善ではないか」と思っていたことがあった。しかし、講演を受け、「ボランティア=善という思い込み」「やらない善よりやる偽善」という言葉が心に残った。

ボランティアに対する動機が何であれ、まずは行動することが重要であるということが分かった。

その行動についても周りの状況や対象に気を配って動きたいと思う。

・ボランティアをする目的はそこまで重要じゃないと分かった。そして「動かない善者より動く偽善者」という言葉が印象に残った。社会から必要とされているとき、どのような目的があったとしても、自ら動いて、主体的に行動することが大切だと実感した。そうでなければ、ボランティアする人がいなくなってしまうので、動ける偽善者になれるようになりたいと感じた。

・杉山先生の講義で一番印象に残ったのは”動かない善者より動く偽善者の方が価値があるのではないか”という言葉です。私もそうだなと思ったので、自分から進んで相手が何を必要としているのか考えて行動していきたいと思いました。体験談発表では、疲れるけど楽しい、やりがいがあるということが聞けたのでいいなと思いました。今年は参加したいなと考えているので、楽しみたいと思います。

・ボランティアに参加する動機は何でもよい。「動かざる善より動く偽善」という言葉が印象的でした。これから、ボランティアをするときは、今日知ったことを頭の片隅に入れて参加しようと思いました。

・杉山先生の、「何もしない善者より動く偽善者の方が断然いい」という言葉が印象に残りました。

指示待ちをするのではなく、主体的な行動を心掛けたいと思います。

2年生の説明で、ケアつきねぶたの具体的なイメージができてよかったです。

・なんとなくボランティアをやりたいという気持ちがあったので、迷惑なボランティアにならないように、相手が何を求めているかを考えて行動しようと思いました。

・ボランティアの意義についてお話しして下さった際に動かない善者より動く偽善者の方が社会的価値があるというお話を聞いてとても感銘を受けました。先輩方のお話を聞いてよりボランティアをしたいという意思が固まりました。

・先輩が詳しく説明して下さったおかげで、ねぶたのイメージが明確にできました。是非、参加したいと思った。

・体験談を聞くことができ、リアルな感想を聞くことができました。それぞれの班の内容や利点が分かりました。

・ボランティアの意義について学ぶことができた。自分がボランティアをすることによって得られることや学ぶことができると思うので、お互いに利益を得られるのだなと感じました。先輩たちの話はとても参考になり、ぜひやってみたいと思いました。

・ボランティアについて考えられたからよかった。ケア付きねぶたについても実際に参加した先輩から話を聞いたからよかった。

・ボランティアをするにあたって、全や悪は関係ないという考えは私も同じだと思いました。

ただ、自分から行動することは必要だと思います。今日のお話を聞いて、ぜひケア付きねぶたに参加したいと思いました。

・ボランティアには、高校生のころから参加する機会も多く、参加してきていたのですが、ボランティアの基本的性格等は考えたことがありませんでした。大学で、ボランティアは1度もしていないので、ボランティアをする前に知ることができてよかったと思います。また、ボランティアがこんなに多様化していることも知りませんでした。そして、2年生の方々の体験談を聞いて、ケア付きねぶたに出てみようかなという気持ちが強くなりました。いろいろな班の話が聞けて良かったです。

・ボランティアを偽善っぽいと考えたことは少しあったけど、動く偽善者の方が何もしない善者よりも誰かのためになるということが印象に残った。先輩たちのリアルな感想を聞けて良かった。

・「何もしない善より動く偽善者の方がよい」という言葉がすごく心に残りました。

自分がボランティアに参加したい！となんとなく思った時、それは自分探しなのか、他社のために尽くしたいのか、はっきりとはわかりませんでした。ですが、何もしないよりは良いと私も思います。

指示されたことしかしない人だけにはなりたくないです。ボランティアについて深く考えさせられました。

・ボランティアには自発性、無償性、利他性、先駆性が大切だと思った。先輩がの話を聞いて、ケア付きねぶたに参加したくなった。

・今回、この講座に参加してみて、改めてボランティアをすることの大切さを学ぶことができた。

ボランティアをするうえで、注意点もあるため、それに気を付けて、様々なボランティアに参加したいと思った。先輩方の話を聞いて、ケア付きねぶたに興味を持った。

・よく周りを見て自分が何をすべきなのか考え、行動していきたいと思います。また、参加した先輩方の話を聞いてよりケア付きねぶたに参加してみたくくなりました。どの役割も学ぶことが多く、自分もたくさんのお話を学んでいきたいです。

・今日の講義では、実際にボランティアに参加した方々から話を聞けて、イメージを膨らませることができたので、すごい良かったです。

・杉山先生のボランティアの話では、特にAさんの話が印象に残りました。自分にも十分にあり得る話なので、そうなったときに自分がきちんと確認して責任のある行動ができるようにしたいです。ケア付きね



ぶたは先輩の話聞いて興味が高まりました。

- ・ボランティアの実際の目的や意味を知った気がしました。体の不自由な方たちのために行動できるかできないかが「助け」となる大きな違いだと改めて認識できました。

- ・今日の杉山講師の話聞いて、自分は指示待ちの人間ではないかどうか、改めて考えてみました。もし自分がAさんの立場であれば、同じように、不満を感じてしまうと思います。そう考えると、自分はまだ子どもなんだなと思いました。なので、これからの大学生活を通して、自分を違う視点から見つめなおせるようになりたいです。

- ・ボランティアは偽善だという人に以前から疑問に思っていましたが、今日、杉山先生の講義聞いて、善悪の軸にあるのではないというのに納得しました。あまりしたことはないのですが、今回の講座を聞き、積極的にやっついこうと思いました。ケア付きねぶたも、やりがいがあり、とても楽しそうなので参加してみたいと思いました。

- ・杉山先生の話聞いて、ボランティアには、自主性等が大切であると思った。また、新人社員のAさんの話で、Aさんの確認不足があることやプロジェクトリーダーがAさんだけが悪いとしたことがいけないと思った。先輩方の体験談聞いて、ケア付きねぶたでの経験を活かして、実習等にも行くことができたなど、ケア付きねぶたで体験した様々な出来事を今につなげられているということを知れてよかった。

- ・今日の講座では「ボランティア」の意義について考え直すきっかけとなりました。また、先輩方からケア付きねぶたの体験談を聞くことができとてもいい講座となりました。ぜひ参加したいと思います。

- ・先輩方の体験談が楽しかったし、それぞれの班の具体的なイメージができた。やらない善よりやる偽善。

- ・ボランティアの意味という点のお話を聞きました。どんな意図であれ、ボランティアをやるということが必要なのだと感じました。先輩のお話を聞いて興味がわきました。

- ・ボランティアに参加する前から、なんだかんだと言って諦めるのではなく、実際に参加することが大切であり、意味のある行動だと思った。さらに、ただ参加して満足するだけではなく、自分は今何をすべきなのか、助けを求めている人はいないかなど、積極的に行動することが何より重要だと感じた。ケア付きねぶたについての先輩方話を聞いて、参加者の方に楽しんでもらうことが1番のリハビリになるという言葉が特に印象に残った。

- ・何もしない善の人より、何かをしている偽善の方がいいという発想が自分にはなくて、びっくりした。自分は偽善でやっては行けなくて、心からやらなくてはいけないと思っていたので、この考えを聞いて感心した。また、ボランティアは人の役に立たなければならないと思っていた私が、植林ボランティアや野鳥保護ボランティアなどその場ですぐに役に立ったり、人の役に立たないのではと思われるボランティアも立派なボランティアなんだということを知った。これから、ボランティアに参加する時の考え方が少し変わった。

- ・ボランティアにも善と偽善で働いている人がいるが、働かない善より働く偽善の人の方がボランティアとして役に立つと聞いたので、自分で考えてよく働ける人になりたいと感じました。去年じょっぱり隊に参加した先輩方の話を聞いて、大変なこともあるけど楽しかったと聞いて、じょっぱり隊に興味を持ちました。参加者の方とコミュニケーションをとることができ、その体験を実習に生かせると聞きました。楽しそうだったので興味を持ちました。

- ・この講座を受ける前までは、「ケア付きねぶた」に参加するか、迷っていましたが、参加したいと思いました。先輩方のお話を聞いて、いい経験になると分かったので、興味を持ちました。是非参加してみたいです。

・ボランティアについての意義を考えることができました。ケア付きねぶたについても、先輩の体験を聞いて、イメージを固めることができましたし、とても興味がわきました。

・ボランティアについて改めて深く考えさせられました。先輩の話聞き、ねぶたに出ようかなと思いました。

・ボランティアについて、基本的な性格やボランティアの違いなど知らないことについて知れた。ケア付きねぶたって何をするのか未知だったけど、詳しいことを知れたのでよかった。

・ボランティアをしている人に対して偽善だとかは思ったことはなかったけれど、今日の講義を受けて、動かない善よりは動く偽善の方がいいなと感じました。ボランティアを行う際には指示を待つのではなく自分で考えて行動するようにしたいと思いました。ケア付きねぶたの様子も具体的に聞くことができるいい機会になりました。

・ボランティアは、行う人の意図を問わず、始めるきっかけも何でもいいと思った。そのためボランティアは善悪という軸はない。しかし、利他性が重要だと分かった。ボランティアに参加する時は、動かないで評論するよりも積極的に動いて経験した方がいいと感じた。なのでこれから主体的にボランティアに参加したいと思った。

・これまでボランティアについて深く考えたことがありませんでした。そのため、自分の評価のためにやっているだけだったが、今回の養成講座でボランティアについて改めて考えることができた。これから個人のため、みんなのためにボランティアをやっていきたい。

・動かない善より動く偽善の方がいい。と思いました。偽善者だー。とか、友人の間でよくある会話であったが、普通にやさしい人であったり、困っている人を助けることは、決して悪いことではないと私は思っている。なので、動かないでいるよりはたとえ偽善者だー！と言われても行動した方がよい。

また、”ボランティア”についてなんとなくわかった。先輩の話聞いて、ケア付きねぶたの参加について考えてみようと思いました。

・ボランティアは自主的に行うものだというのを改めて理解することができた。ボランティアについて考えているだけでなく「何かをしたい」という思いをしっかりとってまずは行動に移すことがボランティアをする初めの一歩になるのではないかと考える。じょっぱり隊について経験者の先輩方の話を聞いて、どの役割も大変だということがしっかり伝わってきた。だが、どれもやりがいがあるもので今後の活動に生かせるものであるということが理解できた。

・ボランティアについてわかった。自分が何を求めているか考えて行動したいと思った。先輩方の話を直接聞くことができ、イメージしやすかった。

・「何もしない善より、ボランティアする偽善の方が価値がある」納得することができた。ボランティアを始めるきっかけを、このような形で始めたとしても、ボランティアを必要とする人にとっては、手助けがほしいのであり、手助けをされて、価値が生まれるのだから、やはり「行動」することがボランティアの必要なことだと改めて再確認できた。

・ケア付きねぶたに参加した先輩たちの話を聞いて、ぜひ参加してみたいと思った。

・ボランティアに参加する時、言われたことだけをやるのではなく心配りをしながら取り組んでいきたいと思った。ケア付きねぶたに参加した先輩たちの話を聞いて、大変だしこうしたらよかったという後悔や改善点などたくさんの経験をしたけど、楽しかったと聞いて、参加してみたいと感じた。

・何もしない「善」よりは、自分から動く「偽善」の方が断然マシだという言葉聞いて、ボランティアをすることには深い意味があるんだと感じました。ボランティアを始めるきっかけは何でもよいというこ

とも、普段の生活から心がけていきたいと思います。

- ・少しのことで気づいて動くことが大切だと思った。ボランティアに関して少し考えが浅かった部分があった。前より深まった。先輩の話からやりがいを感じた。

- ・「ボランティア」という言葉の意味を理解することができた。深く考えようとするのが難しいが、私も偽善でも動かないよりは動いた方がいいと思った。また、誰かに支持されないと動けない受動的な人より、周りのことを考えて主体的に動ける人になりたいと思った。

- ・ボランティアはする側もされる側も楽しむためには、「迷惑なボランティア」をしてはいけないということに改めて感じました。また、ボランティアをするにあたり「主体的」に動くことは本当に大切であるということ学びました。先輩方の話を聞いて、ケア付きねぶたに出ることで勉強以外の様々なことを学べるので、是非参加してみたいと思いました。

- ・ケア付きねぶたに出たいと思った。運行でも設営でも、いろいろ貢献できると思った。

- ・最初の講義を聞いて、何もしないでただ「ボランティアなんて偽善だ」とか「目立ちただけだ」とか批判しているだけの人の心で何を思っているか動いている人の方がいいということが分かった。

- ・ボランティアがたとえ偽善的であっても、助かった人がいることには変わりがないということ、評論家よりも実践家になることが重要だと知った。また、ねぶたに関しての話で、やりたいと思うようになった。

- ・ボランティアに「迷惑」ということがあるというのが新しい感覚でした。ケア付きねぶたは興味があったので、いろんな話が聞けて良かったです。

- ・杉山先生のお話を聞いて、自分は今まで論ずる偽善者であることが多かったように思い、改めて行動するようにしてみようと思った。先輩のお話は、生の声が聴けてとても参考になった。

- ・自分が何を求められているのか考えながらボランティアをしていかなければならないと思いました。また、昨年ケア付きねぶたに参加した先輩方の話を聞いて、私も参加したくなりました。

- ・昨年のケア付きねぶたに参加した先輩方の話を聞いてもちろん大変なこともたくさんあるけど、それだけやりがいとか次につながる経験ができるのだと分かりました。自分も裏方の仕事でボランティアに関わったことがなかったので、先輩方の話を聞いて楽しそうだと思いました。

- ・私は高校ではJRC部に所属していました。ボランティアをしているうちに自分は単なる偽善者でしかないと考え始めて今に至るのですが、先輩方の話を聞いて、しないで文句を言うよりはいい行動だと思いました。あと、先輩の貴重な話を聞くことができてよかったです。

- ・Aさんの話をもとに、ボランティアには自主性や主体性が必要だと思いました。指示待ち人間ではいけないのだと思いました。ケア付きねぶたの話をお聞きしました。参加者に対する反省点が多くありましたが、ねぶたならではの楽しさも感じました。ボランティアは大変なものですが、それよりも得るものがあると先輩方はおっしゃっていました。私はボランティアに興味があるので、養成講座に参加して、知識を深めたいと思いました。

- ・「楽しみ」という気持ちしか残っていない！！青森市出身なので毎年ねぶたに参加しているが、ケア付きねぶたという形で参加してみるのもいい体験になると思う。

- ・ボランティアについて考えさせられた。Aさんの話もボランティアについての講義を聞く前と聞いた後では考え方が変わり、Aさんは悪くないと思っていたが、Aさんにも反省点があったと思うようになった。先輩のお話で、ボランティアをすることで自分に足りないことやこれからの目標も見えてくるようなお話をしていたので、積極的に参加したいと思った。

- ・ボランティア活動は、ただ参加して活動内容の仕事を行うだけのもの、とっていたが、活動の中に自主性、主体的に行動することの必要性を感じた。何もしない善者より行動する偽善者という言葉が印象に残った。得られることも多いと思うので、今回だけではなく、沢山ボランティアに参加していきたいと思った。
- ・今回の講座でボランティアとはどういうものか学びました。ここではAさんの事例について話を聞きました。私はAさんよりもプロジェクトリーダーが悪いと思っていました。ですが、ボランティア→積極性、自主性という観点でみるとプロジェクトリーダーの言う通り動いて、確認取らなかったAさんも悪いと思えました。ケア付きねぶたに参加して、自分も主体的に行動したいと思いました。
- ・短い講座時間ではあったが、ボランティアの多様な面と、援助行動の社会的行動意義を学ぶことができた。特に感銘を受けた内容は、杉山先生がおっしゃった、「何もしない善」よりも「何かする偽善」の方がいいと考えているとのことが考え方の幅を広げてくださった一言だと思った。2年生のねぶた体験談も、砕けた内容も織り交ぜながら、楽しさを話してくれたことで、参加してみたいとの意欲がわいた。
- ・ボランティア養成講座を聞いて、まず行動してみる大切だと感じました。実際にボランティアに参加して、言われたことだけをするのではなく自分で考えて行動することを学んでいきたいとします。
- ・ボランティアについての考え方が広まりました。「教育の一環としてボランティアをすることの推奨や義務付けがある」これは自発性に欠けるのではないかと感じていました。他にも自分の利益を得ようとする目的や恩を売る目的の上でのために行うことに「ボランティアは自分のためではなく相手のために行うものではないか」と感じていました。しかし、今回の話を聞いて、目的はどうであれ他者の助けになるのならそれも援助行動に含まれる、という考えがあることを知りました。
- ・初めにボランティアについての説明や定義などの話が合って色々ボランティアっていうのは何なのか、どういうものなのかということをとっても考えさせられました。最後に体験談を聞いて、ぜひ自分も参加してみたいと思いました。
- ・今日、講演を聞いてボランティアとはいろいろな意味でとらえられるのだなと感じました。その中でも、動かない善者よりも動く偽善者の方がいいという言葉が印象に残りました。ねぶたのじょっぱり隊では、詳しい内容を聞いて理解が深まりました。参加するかじっくり考えていきたいです。
- ・「やらない善よりやる偽善」という言葉を思い出した。主体的にケア付きねぶたに参加したい。
- ・Aさんの話を例に、主体的に取り組むということを改めて感じました。ボランティアに参加するならば、班員の一員としての意識を持ち、自分のできることを積極的に行っていききたいです。私は「ボランティアは偽善だ」という考えを持ったことがありませんでした。しかし、実際にはこのような考えを持っている人がいるというのはわかります。ボランティアと言えないかもしれませんが、前に個人で地域のゴミ拾いをしていた時に、私のことを不思議な目で見たり、目の前でゴミを捨てられたりしたこともありました。私は周囲にどう思われようとボランティアを続けていこうと思います。
- ・動かない善意より動く偽善の方が社会的に良いというのはとても共感しました。動機が単位のためや、自分の利益のためだったとしても、ボランティアに参加していこうと思いました。
- ・ボランティアについての考えや実際の体験談を聞くことができてよかった。ハンデの活動のイメージがつきやすかったし、ボランティアの大切さを改めて感じる事ができた。
- ・まず最初の講演では、Aさんの例を見たことで自主性、主体性の重要さが分かった。自らがかわっているプロジェクト等に対するかわり方として、さまざまな確認をすることや、広い視野でみる必要だと思った。ボランティアでもそういう見方をしていき、学びながらも積極的に行動していきたい。

次に、先輩方の体験談では、各役割の具体的な仕事を知ることができた。私は市内出身だが、こういった活動をしているのは知らなかったので、ケア付きねぶたについて詳しく知ることができてよかった。

- ・ボランティアの意義について杉山先生からお話がありましたが、「動かないよりは動くボランティア精神」を持ちたいと思いました。先輩方の話を聞いて、よりケア付きねぶたに参加したいと思いました。

- ・ボランティアとはまず何かを知りたかったので参加しました。やはりボランティアは推奨されたり、義務付けられたりするものでもなく主体的に参加するものなのだということが分かりました。ボランティアに参加する際は、気を配ったり言われたことだけでとどまらないようにしたいです。ケア付きねぶたの参加体験を聞いたのがとてもためになりました。目的を持って参加した先輩や反省点を次につなげている先輩が多くいて、見習っていこうと思います。自分も楽しんで、そのことによって参加者の方も楽しませられたら一番いいなという思いになりました。どの班でも主体的に取り組んでいきたいです。

- ・これまで何度かボランティアに参加したことがありましたが、進学のためにやらざるを得ないものもありました。しかし、いろんなボランティアをやって共通していえるのは、やってよかったという達成感があった、ということでした。確かに、ただ見ているよりも援助してあげる方がお互いにいい気分になれると思いますし、自分から進んでやったわけですから、ボランティアのようにやってよかったと感ずることができるのだと思いました。自主的にこれからいろんなことに取り組んでいきたいと思います。

- ・私はボランティアは偽善ではないと思う。何を言われても、少しでも誰かの役に立つ可能性があるなら、ボランティアに参加したいと考えている。先輩方の体験談発表でもどんな感じか想像できて、より参加したいと思いました。

- ・ボランティアを始める理由は何でもよく、もしもその気持ちが偽善であっても助けを求めの人を見ている偽善よりも実際に行動できる偽善の方が良いという話が印象に残った。

- ・今回の講座を聞いて、「動かない善より動く偽善の方が価値がある」という言葉がすごく印象的でした。先輩方のお話を聞いて各係の役割も何となくわかったので良かったです。ボランティアにもこれから積極的に参加したいと思います。

- ・ボランティアは自主的、主体的であるため、自分で考えて動くことの大切さを学んだ。でも、同時に難しさもあるなと感じた。

- ・ボランティアには助けを求め相手がいることが一番大切で、ボランティアをする人の意図はあまり関係のないことだというのは、改めて感じました。自分が参加する時も相手の思いをくみ取り、自主的に動くと思いました。また、去年参加した先輩方の体験談を聞いて、後悔のない支援ができればいいと思いました。もし後悔の残るような結果になってしまったら、何がいけなかったのか考え、次につなげられるように参加したいです。

- ・ボランティアに自分から積極的に行動する機会が少なかったため、ボランティアにすごい興味を持った。対人職を目指す一人として主体的に動ける人になりたいと思った。ケア付きねぶたに参加して、視野を広げられたらいいと思う。

- ・自分の行為が「迷惑な」ボランティアになるときもあるので気を付けようと思った。

班によってそれぞれ学べることがあることが分かった。

## 第2回ボランティア養成講座参加後の感想抜粋

- ・実際の参加者さんの様子や参加したことによる変化を見ることができてとても感動しました。私もボランティアを行うことで、何かしらの変化（身体面・精神面等）をもたらすことができればな、と思いました。ケア付ねぶたボランティアのやる気が大きくなりました。
- ・ケア付青森ねぶたじょっぱり隊は、今年で20年で、その間にかかわってきた障害者の方々やそのご家族の方々がたくさんのお話があって、今回参加することで参加者の方々の物語に少しでかかわることが出来ればと思いました。
- ・これまでの参加者の方と家族とのエピソードを聞いてとても感動しました。毎年参加することで、参加者の方がさらによい方向に回復する過程を届けられることがとても魅力に感じました。
- ・じょっぱり隊は、ただのボランティアではなく、参加者とその家族が安全で、かつ楽しい思い出になれるようにケアしていく重要な役割だと思いました。参加する上で、「思いやり」が大事である。責任を持って一緒に楽しみたいと思います。
- ・ケア付ねぶたに参加した方々の様々な物語を見て、学生だけじゃなくて参加者やその家族全員が楽しむことができるものなんだと理解できた。
- ・じょっぱりと言う意味が「自己を強く持ち続ける」ということだったことを知り、自分もじょっぱり隊として自己を強くもって生きたいと思いました。
- ・ケア付ねぶたのボランティアをするにあたって、心得を知れてよかった。私は県外出身ではねとをみたことがなかったので、実際にやれてよかった。またケア付に参加した方の話を聞いて、こういったボランティアに自分たちが参加して、参加者さんに何かいい変化があったりすることがあるのは素晴らしいなと思った。
- ・青森ねぶたについて大変よくわかりました。じょっぱり隊がんばります。
- ・じょっぱり隊の活動が、参加者さんと参加者の家族とのつながりを強めたり、変化を生んだりする活動であると実感した。一人ひとりの参加者さんがいろいろな思いをもって参加していると思うので、それを頭において自分も参加したい。
- ・全国から参加者が集まる大きなボランティアの中に参加できるのがとても楽しみに思います。たくさんわからないことや不安もありますが、多くの人と関わりながら頑張っていきたいです。
- ・じょっぱり隊への参加は、参加者さんの目標としている日でもあり、その祭りの場で盛り上がるだけにとどまらず、そのあとの生活にも深いつながりがあることをわかりました。当日は、私も積極的に明るく接して参加者さんとその家族、良い思い出を作るおてつだいをできたらいいなと思いました。
- ・ケア付青森ねぶたについてどういうことしているのか詳しく知れてよかった。本番どんな感じなのか雰囲気を知れてよかった。どんなことに気をつけなければならぬかなども事前に知れてよかった。
- ・青森県で行われているケア付ねぶたについての理解を深めることが出来た。皆でねぶたをはねたりとても楽しい講座でした。
- ・今回は、じょっぱりについて前回よりもさらに詳しく聞けた気がしました。最後に練習も出来てねぶたが楽しみになりました。じょっぱり隊がリハビリにつながるという仕組みがわかった気がします。
- ・大変そうではありますが、いろいろなドラマや人と出会える良い機会になるのではないかと思います。

またヒューマンケアを学んでいく上で、実践的なものも学べるので、頑張りたいと思いました。

- ・じょっぱり隊の活動を見て、あらためてその影響に感動しました。自分の活動が少しでも役に立つといいなと思います。
- ・毎年、じょっぱり隊を通して人生が変わったり、考え方が変わったりするぐらい参加者さんにとっては大きな行事であることを知って少しでも私が関わり、サポートしたいと感じました。少しはねただけでも楽しかったです。
- ・私はやったことのないものは戸惑ってしまうことがよくあるので、挑戦するように心がけていきたいです。ケア付ねぶたは人の喜びに関われるということがわかったので当日が楽しみです。
- ・実際の体験の動画を見てすごくやる気が出ました。ハネるのは難しかったけど練習も頑張ろうと思いました。
- ・じょっぱり隊によって人生が変わった人々がたくさんいるということがわかり、このボランティアは素晴らしいものであると改めて理解することが出来た。
- ・今日の講座ではじょっぱり隊がどのような活動をしているのかわかった。本番が楽しみです。
- ・じょっぱり隊に参加した方々の話がとても感動しました。
- ・ボランティアの心得を学ぶことが出来た。じょっぱり隊でも生かして笑顔を忘れずに自分の役割を果たしていきたい。それぞれ障害がある人が楽しく安全にはねれるようにがんばりたい。
- ・じょっぱり隊がどのような活動をしているのかを知ることができてよかったです。また、参加された方の体調が回復する様子を見ることができたり、その手伝いをする事が出来るじょっぱり隊の魅力を改めて知れたので参加するのが楽しみになりました。
- ・じょっぱり隊の詳しい活動内容や気をつけるべきことを知れてよかったです。参加者さんの実際のエピソードはほんとうに感動しました。最後の車いすと練習は勉強になりましたし、楽しかったです。
- ・ボランティアは自ら積極的に行き、ねぶたを楽しみにしている参加者にとっていい思い出になってもらえるように頑張りたいと思いました。ねぶたを通して自分も参加者もさらに元気になれるように行きたいです。
- ・1年間、ねぶたに出るために参加者さんが準備をしてくれているので、その思いをわかって、このじょっぱり隊に参加したいと思いました。
- ・じょっぱり隊には障害者の人たちの力を十分に発揮させる力があるとはじめて知った。じょっぱり隊には多くの人に関わりでもっているとしり、裏方の役割も大切だと知った。
- ・今年、初めてじょっぱり隊に参加します。実際に参加する前にこのような講座で今までのじょっぱり隊の様子を知ることが出来てよかったです。障がい者のかたも祭りに参加して楽しめるように私も楽しみながら参加していきたいと思います。また、ねぶた参加によって参加者の方がいろいろな挑戦をしているという話を聞いて私も出来ることをやっていきたいと思いました。
- ・参加者の変化を見てねぶたの影響の大きさに驚きました。きっかけの一部にかかわれることをとてもうれしく思います。
- ・私は、今回のケア付ねぶたじょっぱり隊には参加できませんが、講演を聴き、来年は参加してみたいと思いました。ボランティアはやりがいがあるだけでなく、社会に貢献したり、自分の成長にもつながると思うので、積極的に参加していきたいと思います。また実習等に行ったときもボランティアでの経験は役立つと思うので、様々なボランティアに参加していきたいと思います。

- ・私はじょっぱり隊の活動に参加しないので、ボランティアをすることで将来、私が働いていく中でも活かせることがたくさん学べると感じました。最後はねてみて、ねぶたに参加したいと思った。
- ・じょっぱり隊は参加者にとってもボランティアする人にとってもとても意味のあるボランティアだと思った。
- ・ボランティアに参加するにあたって、自分の出来ることを精一杯取り組んでいきたい。すべてが初めてのことで、たくさんチャレンジしていきたいです。参加者の方々は様々な病気の方がいて、それぞれに思いがあって参加していると思うので、参加者の方の期待に応えられるよう頑張りたいです。
- ・よくわかった。
- ・ボランティアは自分だけのものではなく、たくさんの方が参加しているものなので、一生懸命になりすぎてほかのことに気を配れなくなることは協調性に欠け、より良いサービスを与えられないと感じました。いつどんなときでも、他者のことを考え、笑顔でいることが自分も他者も楽しいと感じられるためにも大切なのだと思いました。
- ・じょっぱり隊について知れてよかった。
- ・じょっぱり隊のことや、参加した人たちの様子を知り、楽しそうだった。また車いすの操作やはねとをして楽しかった。
- ・じょっぱり隊というボランティア活動があることは以前から知っていたが、どんな役割があってどんなことをするのか、また参加するに当たって必要なことや意識の持ち方など詳しく改めて知ることができた。これから保健大生として参加する機会が増えてくると思うので、自分が申し込んでやろうと決めたからにはしっかり自覚を持ってボランティア活動ができるようにしたい。
- ・ボランティアに参加するときの姿勢は、「受け身」ではいけないということを改めて感じた。ボランティアの心得の中で一番印象に残っていることは、「おもてなしの心をこめて」という言葉で、じょっぱり隊に参加する人々にどうやったらねぶた祭りを楽しんでもらえるかを考えることが最も大切だと思った。自分には関係のないことだからと考えるのではなく、すべてを我が事として考えられるようなボランティアをしていきたい。
- ・じょっぱり隊にはたくさん班があることをはじめて知った。一つ一つの班について知ることができて、来年ぜひ参加したいと思った。また、ボランティアは過度に真剣になり、黙々と作業しないといっていて、楽しみながらニコニコとやるのが大切なんだなと思った。
- ・ボランティアに必要な心構えや資質を知ることができました。
- ・じょっぱり隊の活動について、すごいなあと軽く思っていたのですが、今日の講座を聞いて深いものがあるなと感じました。歴史があったり、県知事や内閣総理大臣と地域のものではなく、国のものなのだなと思いました。今年はじょっぱり隊に参加できないのですが、あと3年あるので参加できる時があれば参加してみたいと思いました。
- ・どんなときも「ニコニコ作業する」。これはボランティアにおいてとても大切なことだと思った。人にやらされるのではなく、自分からやるというのが大切だと思った。だんだん歩けるようになっていく障がい者の人たちの成長を見てすごいと思った。
- ・じょっぱり隊は、食事を工夫することや、残念シーンをどうにかしようということで、改善策を考えていたということがわかった。じょっぱり隊に参加することによってお互いが楽しむこともできるが、自身のスキルアップにもつながるということがわかった。
- ・今年で4年目の参加となりますが、普段は患者さんの様子を見る班ではないのでとても新鮮でした。



- ・講座の後半で紹介された二人のお話を聞き、じょっぱり隊は参加者さんの人生の変化のきっかけになっているということがわかった。そして、じょっぱり隊の重要性がわかった。
- ・じょっぱり隊について詳しく知れた。
- ・ボランティアに参加するのが初めてなので緊張しているが、参加者の人と自分も楽しめるように取り組みたい。
- ・今回の講座を聞いて、じょっぱり隊はノーマライゼーションの理念を大事にしていることがわかった。またボランティアをするにあたり、積極的な姿勢やボランティア同士の声の掛け合いも大切であると学んだ。以上のことから、参加者がいかにねぶたを楽しむには、私たちボランティアがボランティアの心得を決して忘れてはならないと思った。
- ・ボランティアは作業を黙々とするのではなく、周りとは協力し合って積極性をもってすることだとわかった。また楽しむことも重要なのではないかと思った。今年のじょっぱり隊も無事成功して欲しいです。ボランティアによって障害を持った人だけでなく周りの家族も変わるんだと思った。
- ・20周年もの長い歴史があり、ボランティアであるじょっぱり隊は素晴らしいものだと感じた。保健大学の卒業生が、このように実際に活躍しているのを見てかっこいいなと思った。
- ・ボランティアの重要性を知ることができた。
- ・ケア付ねぶたのための心構えを知れた。最後にみんなではねたのは楽しかった。
- ・参加者の方が、じょっぱり隊に参加することで家族関係や体調が変化することがあるということがわかった。当日は、自分の役割をしっかりとこなして楽しい思い出を作ってもらえるようにがんばりたい。心得でもあったように作業に集中しすぎて無愛想にならないように気をつけたい。
- ・県内出身者であるが、ねぶたのことは存在くらいしか知らなかったなので、実際にはねてみてとても楽しかった。ボランティアでは設営班なのではねることはできないが、自分の役割をしっかりと行い楽しみたいと思った。
- ・じょっぱり隊に参加することで家族のつながりが深くなったり、自分に自信が持てるようになったりと参加者の方にとっては、大切なイベントとなっていると思うので、微力ですが精一杯お手伝いしようと思いました。
- ・青森市内の出身だったので、ねぶたはほんとうにゆかりがあり、こういうボランティアに参加できることがとてもうれしいです。久しぶりに跳人体験ができて楽しかったし、じょっぱり隊の活動が楽しみです。
- ・ケア付ねぶたを通して、家族の絆が深まる、車いすの人が立てるようになるなど、その人の人生が変わるようなドラマがあることを知り、素敵だと思いました。車いすの人たちに心からねぶたを楽しんでいただき、一生の思い出に残るように精一杯がんばりたいと思いました。
- ・車いすの使用方法を初めて知ったので、利用者さんに不快な思いをさせないように、安全に配慮しながら使っていきたいと思いました。県内出身ですが、ねぶた祭りに参加するのは初めてなので、利用者さんと一緒に楽しみたいと思いました。
- ・実際の活動の写真を見て、当日の様子がよりイメージできた。参加する人それぞれに様々な背景があると思うが、じょっぱり隊を通して良い影響を受けてほしい。そのための良いサポートができるよう精一杯がんばりたいと思う。
- ・じょっぱり隊の活動には参加者それぞれのドラマがあり、ボランティアを行うにあたって笑顔を絶やさずがんばらなければならないと思った。自己の体調管理とハネトの練習をしっかりとやり当日は楽しみたい。

- ・話をお聞きして、ねぶたがとても楽しみになった。今まではじょっぱり隊とは何なのかよくわからなかったが、全国の方がいらっしやると知れてよかった。実際に始めて跳ねてみてとても楽しかった。
- ・今まで、じょっぱり隊は、参加者さんに思い出を作ってもらうためのものだけ考えていたが、ボランティアする人たち自身やその家族などの周りの人々にも影響を与えるきっかけとなるということが体験談を聞いてわかった。じょっぱり隊を通して同じ境遇の方々やボランティアの方々、ご家族同士でたくさん楽しい交流ができるようにサポートしたい。
- ・ケア付ねぶたが今年で20周年だとはじめて知り、けっこう歴史があるのだと思いました。ボランティア頑張ろうと思いました。
- ・じょっぱりに参加して、家族やその本人に限らず、良い影響をあたえていることを知りました。今回参加する際に、人を支えながら自分自身を成長させたいです。
- ・じょっぱり隊で人生が変わる人もいる素晴らしいボランティア活動だと思った。その一員であることを意識して参加したい。なるべく頼みごとを断らないように取り組んでいきたいと思っている。
- ・私は秋田出身で、そもそもねぶた自体が初めてで、さらにケア付ねぶたということで不安もたくさんありました。忙しくて楽しむ時間はないのかもしれないと思っていましたが、今回お話を聞いて大変なことは間違いないが、楽しさもあるものなのだとわかりました。ボランティアでは、自主的に動けるように意識し、参加したいと思います。
- ・今回この講座の中でじょっぱり隊には全国各地から参加しているということや、じょっぱり隊のメインテーマ等について知ることができました。また、ボランティアでそれぞれがどのような役割をしたり、どんなことに気をつけるのかがわかり、とても勉強になったと感じました。
- ・じょっぱり隊についてたくさん知ることができました。ねぶたに参加するところか、生で見たこともなかったもので、ねぶたそのものを楽しみつつ、参加者さんたちとの交流を深めていきたいです。2人の参加者のエピソードから、新しい出会いや挑戦することをいつまでも大切にしていこうと思いました。
- ・今回は、主にじょっぱり隊について活動内容や参加者のエピソードなどを聞きました。じょっぱり隊については、多くの県から参加し、様々な病状や障害を持っている方が参加していることがわかりました。参加者の方は、きっと不安と楽しみを抱えていて、ボランティアに参加する私たちより緊張しているだろうなと思いました。私は青森県民なので広い心で参加者の方を迎い入れ、安心して楽しくねぶた祭りに参加してもらえるように頑張ろうと思いました。参加者の方のエピソードを聞いて何か大きな者をひとつ一緒にみんなで言うということは不思議と人を変える力があるんだなと感じました。参加した方が少しでも明るく楽しい気持ちになってもらえるようにボランティアとして参加者の方を支援していきたいです。
- ・じょっぱり隊について知ることができてよかったです。ボランティアで参加するのが楽しみだと思いました。最後にみんなで輪になってやったのが楽しかったです。
- ・ケア付ねぶたの活動概要がわかりました。参加者の方がこんなに全国各地から来ているとは思わなかったので驚きました。ケア付ねぶたに参加することで参加者の方々にも良い影響が生まれていることを知り、私もその一助となれるように自主的に取り組みたいと思います。
- ・じょっぱり隊は、参加者とその家族との絆を強くしたり、参加者同士で交流するいい機会なんだなと思った。今回はケア付ねぶたに参加できなかったけど、いつか参加してみたいと思う。また跳人の練習を少ししたが、短い時間でも汗をかいてしまって、跳人の人は本番は大変だ。頑張りたい。
- ・じょっぱり隊について詳しく知り、じょっぱり隊から生まれたドラマを見て頑張ろうと思いました。自分が楽しめていなければ参加者を楽しませることはできないと思うので、参加者と一緒に盛り上げていき

たいです。じょっぱり隊参加を楽しみに 1 年を頑張っている参加者もいるということだったので、よい思い出を作ってもらえるように支援していきたいと思いました。

- じょっぱり隊のケア付ねぶたに参加する方々には、それぞれ一人ひとりの物語があり、この日を楽しみにしているのだということを感じました。参加者はもちろんですが、あたしたちも主人公であるということを知ったので、楽しみたいと思いました。

- レジユメの内容や写真付のお話でとてもわかりやすかったです。また参加した家族のドラマを聞いて、私も参加する方だけではなく、家族の方のためにもしっかりとボランティアを全うしたいと思いました。

- 障がい者の方の話に感動した。跳ねるのがとてもたのしかった。

- ボランティアとはどのようなものか、ケア付ねぶたを例にしていたのでわかりやすかった。

- 合言葉があるなんて知りませんでした。じょっぱり隊にも参加するので今回の内容を活かしたいです。

- じょっぱり隊の理念が保健大と同じヘルスリテラシーとノーマライゼーションであることははじめて知った。ボランティアをする際、何をしたらいいかわからないときが多いが、今回の講演を聴き、これからは何をしたらいいか相談し、自主的に行動しようと思った。さらにボランティアは黙々と作業するのではなく、相手のことでも自分のことと思い、一緒になって支えあっていくことだという言葉のように他者を思いやる心を忘れずにいたい。

- お話が印象的でした。跳ねてみて楽しかったです。

- 今日の講座を聞いてボランティアに参加したいという気持ちになりました。じょっぱり隊はとてもいいボランティアだと思いました。

- じょっぱり隊に参加するに当たり、やはり気持ちが伴わないボランティアもいると思う。しかし、声かけや言葉の工夫、またボランティア同士でサポートしあうという工夫があり、参加者のみならずボランティア双方を含めて、このねぶたを楽しめるような配慮がされていてとても感動しました。このように行うことでイベント全体の質向上につながるのだと考えました。またお話を聞き、とても感動しました。それと同時にこのようなことがあるのだと感じ、自分も将来、このように支えられ、経験したいと福祉に対する意欲がより増しました。このようなドラマがあれば福祉に対する興味もより一層増すのだと考えました。

- ケア付ねぶたによって生活がまるっきり変わる人が多くいて大変すばらしいものだと感じた。

- ボランティアとは黙々と作業することではなく、我がこととして一緒になって支えあってゆくこと、というまさにヒューマンケアのひとつの大切な概念を学んだ思いです。この考え方を大切にしていきたいと思えます。

- 参加者の人やその家族と自らコミュニケーションをとり、ねぶたを楽しみたいと思った。

- ケアを必要としている本人とその家族のためにすべきことを学べた。援助するために必要なことをこのボランティアから吸収したいと思った。

- ケア付ねぶたを通して回復したり良い方向に向かっていった人もいて非常に良い活動だと思った。食事班として自分も頑張りたい。

- ねぶたボランティアのじょっぱり隊のことについてたくさん知ることができました。参加者の方と積極的にコミュニケーションをとり、参加者の方も自分も楽しい思い出が残るねぶた祭りにしたいと思いました。

- じょっぱり隊について改めて知ることができました。8月3日のボランティア頑張りたいと思います。

- さまざまな例や実際起こった事例をわかりやすく紹介してくれたので興味を持ってました。

- じょっぱりに参加することでいろいろな気持ちの変化があることがわかった。参加者も家族も普段の生

活から離れてリラックスできたり、刺激を受けられるのでイベントに参加することは大事だと思った。

- ケア付ねぶたを楽しみにして人生が変わった人もいると聞いてさらに参加が楽しみになりました。
- はじめての参加なのでうまくいかないこともあると思うけど、前向きな気持ちでがんばろうと思った。
- ケア付ねぶたには参加者さんとそのご家族に「参加する思い」というものがあるとわかりました。
- じょっぱり隊への参加を通して元気になった参加者の方が多くいて驚きました。
- 初めてのボランティア活動への参加です。初めてやったからわからない、できないというものではなく、「やらせてください。チャレンジさせてください」という姿勢で参加者の方々に楽しんでもらえるよう頑張りたいと思いました。
- 実際に跳ねるのが楽しかった。ねぶたを通した家族のつながりや、家族同士のつながりなど、いろんな物語があることを知ってじょっぱり隊の活動が楽しみになった。
- ねぶたについて知れてよかった。体験者さんのエピソードがあってとても伝わった。
- じょっぱり隊の活動は、やはり大変なことも多いのだろうなと感じました。しかしその分、成功して活動がすべて終わったときには大きな達成感があるはずだと思います。今年はじょっぱり隊に参加することができませんが、来年は都合がいたらぜひ参加したいと思います。じょっぱり隊の体験談を聞いて、家族の絆を感じることができました。また体験談でリハビリに成果が徐々に出てくる様子に感動しました。自分たちは自分たちのためにやっているつもりでもほかの人のためにもなっているということは素晴らしいことだと思いました。
- じょっぱり隊の様子などがよくわかりました。写真はとても楽しそうだったが、仕事は大変だと思うので、心構えをしっかりとって活動に取り組んでいきたいと思います。



## 全体スケジュール

## 平成27年度ケア付き青森ねぷたじょっぱり隊

### 事前説明会

日時：8月2日(日) 10:30～12:00  
場所：A棟3階 A305教室、フジカレッジガミネーションルーム(A305教室隣り)  
内容：Tシャツ、シール配布  
班の紹介  
活動の最終確認  
(運行班はフジカレッジルームでハネトの振り付け練習)

- ・学生ボランティアは全員参加してください。
- ・事前にこのおおよそをよ読み、質問などはこの説明会のときにしてください。
- ・フライマリーケアの担当者を発表します。参加者の情報を伝えますので、各自、筆記用具、メモ用紙を持参してください。

### ねぷた出陣

8月3日(月) …… 2ページ  
(場合によっては8月2日午後にボランティアをお願いすることがあるかもしれません。)

### 活動を振り返る会

日時：8月4日(火) 14:00～17:00 …… 15ページ  
場所：B棟1階B110教室

## 青森県立保健大学 学生ボランティアのしおり

### 目次

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 全体スケジュール              | 1ページ  |
| ねぷた出陣(8月3日)のスケジュールと内容 | 2ページ  |
| ボランティア留意事項            | 5ページ  |
| ボランティアの心得【共通】         | 6ページ  |
| ボランティアの心得【備品班】        | 7ページ  |
| ボランティアの心得【運行班】        | 8ページ  |
| ボランティアの心得【設営班】        | 10ページ |
| ボランティアの心得【食料班】        | 11ページ |
| 保健大学オリジナルハネト振付        | 12ページ |
| 緊急時等の連絡先              | 14ページ |
| 活動を振り返る会の案内           | 15ページ |

|     | リーダー  | 代表学生 (学生リーダー)                  |
|-----|-------|--------------------------------|
| 食料班 | 本間 由紀 | 菊池 由佳、小林 美貴                    |
| 設営班 | 山口 真弥 | 前田 蒼津彦、荒澤 隼、松路 彩華              |
| 備品班 | 山口 直美 | 渋谷 知加、中野 伽南                    |
| 運行班 | 櫻田 優  | 松島 穂菜美、大場 鈴、武田 聖奈、山口 明日香、成田 都和 |

#### 4. 決起大会

- 次の時間帯は全員参加です。ただし、各班のリーダーから指示があった場合はそれに従ってください。

9 : 30 ボランティア決起大会 (4F 県民ホール)  
 10 : 45 アトラクション (同)  
 11 : 00 結団式 (同)

#### 5. 休憩 (食事)

- 食事や休憩時間は、タイムスケジュールを参照して各自とってください。ただし、食事や休憩に入るときは、必ず代表学生を通じてリーダーに確認をとってください。
- 必要は、4階大中研修室でカレーライスが提供されます。各自受け取って、交流会会場 (4階大中研修室) 以外の場所でも食べてください。ボランティア担当者は、交流会場で参加者と一緒に昼食をとります。参加者と同じものを食べます。料理を取り分けるなど、参加者への配慮を忘れないこと。

#### 6. 青い森公園へ移動

- 県民福祉プラザから青い森公園に移動する際は、準備のできた人から順次乗車します。各リーダー、車両班の指示に従って、スムーズに乗車してください。
- 県民福祉プラザへは戻らないので、自分の荷物をすべて持って移動してください。絶対に忘れ物がないようにしてください。

#### 7. 解散

- 各班がリーダーの指示により解散したら、各班の担当教員のもとに集合してください。各班が解散しても、勝手に帰らないでください。担当教員が人数確認をします。
- モーターとリンク GO、つゆき号、観光バスで大学に戻ります。青い森公園から自分で帰りたい人は、このとき担当教員に申し出てください。
- バスは青い森公園東側 (日本赤十字社青森県支部付近) に停車しています。事務局佐藤さんの確認を受けた人から順に乗車してください。  
 バス出発時刻 21:30、22:00、22:10  
 ※ 各自の乗車時刻は、別配布「バス乗車等確認表」を参照
- 大学に到着したら、担当教員の指示により解散となります。

## ねぶた出陣のスケジュールと内容

日時：8月3日 (月)

### 1. 集合時間

- モーターとリンク GO、つゆき号で移動します。  
 次の時間どおりに集合してください。  
 集合場所：管理棟正面  
 バス出発時刻：7:30、8:00、8:30

※ 各自の集合時刻は、別配布「バス乗車等確認表」を参照

- モーターとリンク GO、つゆき号を使用しない場合は、前日までに各班の担当教員または廣森先生、事務局佐藤さんに連絡してください。
- 当日になって使用しないことになった場合は、出発の時刻前までに「緊急時等の連絡先」(14ページ)へ連絡してください。
- 定刻で出発しますので、遅れることはないようにしてください。

### 2. 福祉プラザに到着したら

- 1階ロビーで待機してください。別業務の方や来訪者がいますので、私語は控えるようにしてください。
- 担当教員が出欠確認をします。  
 担当教員 食料班 乗鞍先生 長門先生、マイケル・スミス先生  
 設営班 児玉先生  
 備品班 運行班 (全体) 木村先生、戸沼先生、廣森先生、メリッサ先生、事務局佐藤  
 ・全員そろったら、担当教員と一緒に各班の集合場所へ向かいます。

### 3. 各班での活動

- 各自、各班心得、タイムスケジュールを確認して動いてください。ただし、タイムスケジュールはあくまでも目安です。実際の行動は、各班のリーダーに従ってください。
- 各班への伝達事項は、県民福祉プラザ4階大ホール前に設置するホワイトボードを随時確認してください。
- 各班の代表学生 (学生リーダー) は、各班のリーダーと学生ボランティアの間で連絡のやりとりをしてください。学生ボランティアは、確認したいこと、指示を仰ぎたいことがあれば、代表学生に伝え、代表学生は、まとめてリーダーに確認してください。

## ボランティア留意事項

### ☆ 初対面の合言葉

声高らかに、お願いします。  
「ようこそ（青森へ）、ようこそ（じよっぱり隊へ）」おもてなしの心をこめて

### ☆ 協働の合言葉

上手くできたら、「じよっぱり隊だからね」、失敗した時にこそ、「じよっぱり隊のものね」、と声に出してみてください。

### ◆ 準備を重ねてきましたが、予定変更や、ハプニングは、このようなイベントにつきものです。

また情報が伝わらず、思わぬ活動が出来ない立ち止まっている方もいるかもしれませんが、真剣であればあるほど、「怒り心頭に発する」場合もあるでしょう。でも、セッパの出会いを大切に、例え怒りであってもそのエネルギーは、活動のために向けて欲しいもの。そこで何かトラブル起きたときの合言葉、「じよっぱり隊だからね」をご紹介します。声に出して言いながら、ストレスもたかまわりむさろりと流して、前進してください。有終完美（終わればすべてよし）を目指し、不具合があっても、「じよっぱり隊だからね」で、お願いします。

最高のおもてなし、それは、  
ボランティアの顔、  
皆さんの笑顔、なのです

### ハネトの皆様へ

|  |
|--|
| 運行時は常に＜参加者＞＜付添＞＜ハネト＞3人一組で行動します。ハネトの役割は次の通りです。                |
| 1 参加者、付添者（家族）の中には、車外の方もいます。場所や方言等に不便を感じている時は、丁寧に説明し、誘導しましょう。 |
| 2 付添いの方がトイレや着替え等で、参加者から離れる時、しっかりと交差しガボーンしましょう。               |
| 3 ねぶたの衣装を身につけ、「じよっぱり隊」オリジナルの振り付けで、運行を盛り上げましょう。               |
| 4 参加者の皆様は、ねぶたに参加することを楽しみとしています。青森の魅力を沢山紹介し、青森を満喫していただきましょう。  |

### <服装・持ち物>

- 服装
  - ・上は、大学Tシャツを着用してください（現地に着替えない）。下はズボンを着用してください。
  - ・ソックス、スニーカーを履いてくる。
  - ・雨天の場合は、雨ガッパなどを各自で用意する。
- 持ち物
  - ・貴重品の管理は各自で行ってください。大金を持ってこない。運行中は浴衣に着替えるので、ボーチなどを持参して各自で貴重品管理をしてください。

### <その他>

- 体調管理
  - ・体調が悪くなったら、早めに担当教員に申し出てください。
- 緊急連絡
  - ・体調不良以外にも、困ったことや、わからないことがあれば、担当教員に確認、報告等してください。
- ねぶた終了後、参加者とその家族への対応
  - 場合によって、参加者や家族の方からお手紙が届く場合があります。その際にはきちんとお返事を出すようにお願いします。

1. ボランティア自身の健康管理が大切です。自己管理ですが、早め早めに、対処して欲しいものです。

・体調不良時は自分で医務室に申し出る  
・要原因に相談し、体調が回復を定める

2. ケア付よびの隊では、多くの関係者の期待を背負いながら活動しています。多くの支援者の期待と、そして信用を損ねない活動姿勢が重要です。夜遅くの活動でもあり、祭りという非日常の雰囲気について飲み込まれてしまいがちですが、しっかり気持ちを引き締め、お願いいたします。

・注意が必要な行動を自分で考えてみよう

3. 総勢 250 人で、この事業を行います。時間の制約もあり、班ごとの活動はしますが、総合力が問われます。気持ちよく仕上げるコツは、「互いに相談、きちんと連絡、しっかりと報告」です。さらに、ボランティアの真意は、主体性、自主性です。だから、「～の仕事が終わりました。次は何ですか」と声をかけてください。これは基本のキです。心がけないと、できない事もあります。ケアの基本は、相手の方をよく見ること、コミュニケーションのコツは笑顔、皆さんの一人一人の手心がけで、この活動をより良くしてください。

### 相談室について

いつでも、どのようなことでも、疑問、不安に感じたら、担当ボランティアのリーダーや教員に聞いてください。やむを得ず参加できなくなった場合は、速やかに「緊急時等の連絡先」に連絡してください。

## 備品班 心得！

### 集合場所 4階小研修室

|  |   |
|--|---|
| 備品班は、ボランティアの方との協力を心がけて、スムーズに荷物の整えや着付けができるように声をかけあってください。 |   |
| その1  | 荷物は最小限度にして下さい。持ちながらの作業はできません。   |
| その2  | 集合場所ではリーダーが受付し、備品班当日の動きを確認します。  |
| その3  | それぞれに役割がありますので、体調不良時は、無理をせずに早めにリーダーへの報告をお願いします。                                     |
| その4  | 行動するときは、どこに行くのか、伝達し、勝手な行動は控えてください。所在が確認できないときは、あなたを探すこととなります。                       |
| その5  | わからないときは、自分の判断で行動や回答をせずに、すぐにリーダーへ連絡してください。リーダーに連絡がつかない時は、山口さんへ連絡してください。             |
| その6  | 14時からの着付けの際、着物の不備や質問等わからない時は、その場を離れず、後回しにせず、すぐにリーダーに連絡してください。                       |
| その7  | 「荷物がなくなった」等の声が聞かれた時は、一人で行動せずに、そのことを言いに来た方の名前を聞き、その場でリーダーに連絡ください。リーダーがその場に行ったら対応します。 |

### ★本学学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆ 出陣前後の浴衣と私服の受け渡しでは混み合って騒然となることもあります。落ちついて相手の名前を確認して確実に受け渡ししましょう。
- ◆ ねぶた終了後、運行班のみなさんが浴衣をランドリーバッグに入れますが、携帯電話や貴重品等の所持品を入れられないよう呼びかけるとともに確認しましょう。
- ◆ 他ボランティアから荷物の移動を指示されることもありますが、不明な場合は場所を確認してから指示を受けましょう。

## 保健大ボランティア 共通心得！

|     |   |
|-----|---|
| その1 | 元気に声を出して挨拶を忘れずに！<br>合言葉 トランプがあっても … 「じょっぱりだものね」<br>良いことがあれば … 「じょっぱりだからね」                               |
| その2 | 8月3日の集合場所になっている県民福祉プラザには、シャトルバス、若しくは公共機関を利用し、自転車、自動車は避けてください。駐車（輪）のお世話は出来ません（解散場所は県民福祉プラザではなく、青い森公園です。） |
| その3 | 一人で解決しようと思わず、迷ったらじょっぱり隊のTシャツを着ているボランティアスタッフに相談しましょう。変更事項が常にあります。何時の時点の指示が確認しましょう。                       |
| その4 | 運行班になっている方は、ソックス・スニーカーをはいてきてください（本来なら草履ですが、安全と動きやすさを考慮して）   |
| その5 | 携帯電話が雨に濡れて壊れないように、ジップロックなどの入れ物に入れるなど工夫しましょう。  |
| その6 | 貴重品の管理は各自で！大金を持ってこない。食事や飲み物は会場です。   |
| その7 | 所持品の保管は自己責任です。大事なものは持ってこない。また所持品は記名をすること（備替えがあるので、身に纏けるものは、ウエストポーチなどを活用のこと）                             |
| その8 | 体調不良の際には、教員に申し出てください。   |
| その9 | ボランティア活動時は、ボランティアであることを心がけましょう。活動時の携帯電話の使用は控えてください。   |

\* 昼食は、4階大中研修室で提供されたカレーを持参し、交流会会場（4階大中研修室）以外の場所です。ホールやテラス、その他の部屋を利用して食事をしてください。



## 運行班 心得！

### 集合場所 4 階県民ホール

|                              |  |
|------------------------------|--|
| わからないことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。 |  |
| その 1                         | 怪我等には十分注意を。もし怪我・体調不良・事故等の場合にはリーダーへ連絡をお願いします。             |
| その 2                         | 所持品等については自己管理をお願いします。                                    |
| その 3                         | 車でお越しの方は県庁第 2 駐車場の駐車をお願いします。(学生は駐車しない)                   |
| その 4                         | 8 月 3 日は解散時刻を 22 時頃に予定しています。やむを得ず早く帰宅する場合には教員に連絡をお願いします。 |
| その 5                         | 天候等の状況によってスケジュール等が変更になる場合があります。その際には随時連絡します。             |

\* 退陣後、速やかに着替えをし、バス発車時刻までにバス待機場所に集合してください。

(着替え場所) ハネット … 青い森公園内のテント

ハネット以外 … 県庁北棟 5 階 AB 会議室

※ 退陣が 2 1 : 3 0 以降になった場合は、全員テント。

\* 衣表については伝統的な着付けで行います。着付け班の指示に従って着用してください。(お座の丈が長いことは了解してください)

### ★本学学生ボランティアへの伝達事項★

#### ハネットグループ

- ◆ 着替えは 1 3 時頃を予定しています。その前に昼食を終えるようにしましょう。
- ◆ 服装は、履き慣れた運動靴とタグトップの着用 (着替えが楽にでき、汗を吸い取ってくれます)をお勧めします。
- ◆ 運行班だけが浴衣に着替えます。脱いだ洋服、貴重品以外の荷物は備品班に預けることになるので、大きい荷物などを持ち込まないようにしてください。
- ◆ 着替えは、教員の指導を受けながら各自で行います (着替え場所：女子 4 階県民ホールステージ、男子ステージ下客席)。着付け終了後、着付け班ボランティアに最終確認していただきます。
- ◆ 1 4 : 0 0 までには着替えを終了するよう、ときばきと動きましょう。
- ◆ 浴衣に着替えたら、モーリーのラミネートシートを右胸に貼ってください

※ プライマリーケアを担当する学生は、参加者を一人にしないようタイミングを見て着替えに行ってください。近くのボランティアに必ず声掛けしてから離れましょう。

- ◆ 花笠は、青い森公園に移動したら備品班から受け取ります。
  - ◆ 振り付けは元氣よく笑顔でがんばりましょう。また、隊列は「常に美しく虎心掛けましょう。
  - ◆ 運行中は緊急の場合を除き隊列を離れることができません。体調を整えて臨みましょう。また水分をこまめにとりましょう。
  - ◆ 運行中やその前後も参加者の方を一人にしないよう十分注意しましょう。持ち場を離れる時は付添いさん等に一声かけてください。
  - ◆ 退陣後は、すぐに着替えに入るのではなく、参加者が一人にならないことを参加者と付添い確認してから着替え場所に移動しましょう。そのまま入浴場所に移動する参加者もいるので、お別れの挨拶のタイミングを迷わないように動きましょう。
  - ◆ 退陣後、花笠を青い森公園の回収場所に各自戻してください。
  - ◆ 青い森公園内に設置したテントで、自分の荷物を受け取って着替えをしてください (状況に応じて変更になる場合があります。指示のもと備品班に行動してください)。
- ※ プライマリーケアを担当する学生の着替えが優先です。通って参加者が退陣してくるので、急いで着替えて青い森公園に戻り、担当の参加者についてください。
- ◆ 脱いだ衣表は、テント脇に待機している備品班に返却しますが、その際私物が混じっていないか確認してください。

#### のほりグループ

- ◆ 着替えの時間や場所はハネットグループと同様ですが、衣表は、はつととなります。
- ◆ 運行中、緊急事態やトイレ移動時は、のほりを持って隊列から抜けます。
- ◆ のほりはお腹につけて固定し、4 5 度の角度で持ちます。常に横を意識し、そろえて進むよう心がけます。
- ◆ 運行中は、隊列の乱れを修正します。また、カラスハネット等の侵入を防ぎます。
- ◆ 県庁北棟 5 階 AB 会議室で、自分の荷物を受け取って着替えをしてください。退陣時間が 2 1 : 3 0 を過ぎた場合は、青い森公園内に設置したテントで着替えます。

## 食料班 心得！

### 集合場所 5階調理実習室

|     |  |
|-----|--|
| その1 | 必ず手洗いをし、作業に取り掛かりましょう。<br>むやみに髪など触らず、手指を清潔に保ちましょう。<br>また、怪我には留意しましょう。   |
| その2 | 調理道具は使ったら、片付ける。作業台の上は、整理整頓をしながら調理しましょう。<br>布巾を常備し、汚れは小さいうちに掃除しましょう。  |
| その3 | 貴重品、所持品の管理は自己責任です。<br>大事なものは持ってこない。また、所持品には記名をする。(身につけるものは、ウエス<br>トポーチなどを活用のこと)                              |
| その4 | 会館駐車場の使用は禁止！！使用できる駐車場は興民福祉プラザが第2駐車場のみ<br>です。駐車場のお世話はできませんので、自転車や公共機関を活用しましょう(会館<br>事務局への問い合わせ 厳禁) (学生は駐車しない) |
| その5 | 食中毒感染予防のため、体調不良の際は、必ずリーダーまたは、教員に申し出てくださ<br>い。  |
| その6 | 食材や道具を台車に積みすぎない。荷崩れの恐れがあるので無理に運ばない！！<br>何かあったら一人で解決しようと思わず、ボランティアスタッフに相談すること。                                |
| その7 | 食事時には、おもてなしの心で、参加者・ボランティアさんに積極的に声をかけましょう。  |
| その8 | 元気に声を出して挨拶を忘れずに！<br>合言葉 トラブルがあっても「じよっぼだものね」<br>良いことがあれば、「じよっぼだからね」   |

### ★本学学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆食事を提供する際には衛生的であることに気を付けなければなりません。
- ◆衛生的な調理や盛り付けをするために、以下のことに気をつけましょう。
  - ① 爪は短く切り、マニキュアはしてこない。
  - ② 指輪やブレスレットなどの手指へのアクセサリは一つつけてこない。
  - ③ 三角巾、エプロンを持参する。

## 設営班 心得！

### 集合場所： 4階大中研修室

わからないことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。

|     |  |
|-----|--|
| その1 | 怪我等には十分注意を。もし、怪我・体調不良・事故等の場合には、リーダーへ連絡をお願いいたします。                               |
| その2 | 所持品等については自己管理をお願いします。  |
| その3 | 8月2日・3日ともに車でのお越しの方は県プラ第2駐車場への駐車をお願いします。<br>(学生は駐車しない)                          |
| その4 | 8月3日解散予定時刻が22時頃を予定しております。ご都合等ある場合にはその前に帰<br>宅しても構いません。帰宅前にリーダーへの声かけ・連絡をお願いします。 |
| その5 | 天候等の状況によってスケジュールの変更があるので、変更があった場合には随時、連絡を<br>行いますので宜しくをお願いします。                 |
| その6 | 8月3日 交流会から着替えセッティングでの注意事項<br>大中研修室の壮切は管理室職員が行います。                              |

### ★本学学生ボランティアへの伝達事項★

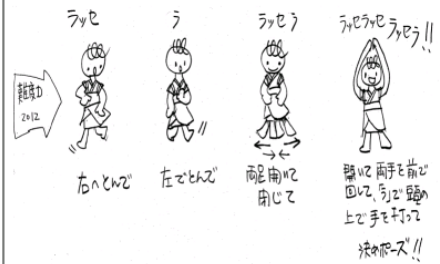
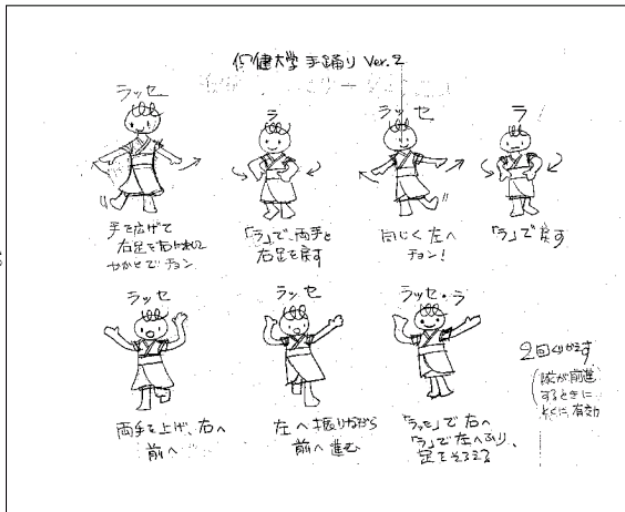
- ◆物品の移動・運搬やテント設営などの力仕事が多いため、体調を整えて臨んでください。
- ◆服装は動きやすいもので構いませんが、膝をつく姿勢をとることも多いため、膝を保護できる服装が  
望ましいです。また、軍手を準備しておくとう便利です。

by 保徳大学 手踊り Ver.2 2009

by 保徳大学  
手踊り Ver.2



12



## 緊急時等の連絡先

ケア付きねぶたでの緊急時以外は使用しないでください。当日のみの連絡可能です。

8月3日（月）以外は通話できません。

|          |  |
|----------|--|
| 廣森先生（青）  |  |
| 事務局佐藤（赤） |  |

## ケア付きねぶた“じよっぱり隊”の活動を振り返る会

この会は、ケア付きねぶたが終わった後に、ボランティアの学生の皆さんが、それぞれどのような活動をして、それがどのような形で参加された方に提供されていたか、そして、参加者の方に「どう喜んでいただいた」のかを振り返る会です。

“じよっぱり隊”参加者の皆さんはずつと前から、この日を楽しみにしてきました。その方の期待に応えようと、たくさんの方が何ヶ月もの月日をかけて準備をしてきました。ボランティアとして参加された学生の皆さんは、全体がみえない状況の中、参加者の皆さんに喜んでもらえるように、自分にできることを一生懸命考えてやりぬいたと思います。

そこで、皆さんの体験や感動したことを学生全員で共有することで、新たな感動と、ボランティアについての考え方に広がりがでてくると思います。

また、皆さんの声を“じよっぱり隊”の企画・運営をされている方に伝えることで、次に参加する方やご家族の方、ボランティアの方の活動に貢献できると 생각합니다。

振り返る会は、ケア付きねぶたの翌日に開催します。

興奮さめやめ皆さんとお話ができることを楽しみにしています。

日時：2015年8月4日（火） 14:00～17:00

会場：B110教室

プログラム（参加人数により、時間を変更することがあります）

14:00～14:10 オリエンテーションとグループ分け

\*グループは、当日おしらせします。

14:10～15:30 グループ内での話し合い

（活動内容、参加者の反応、困ったこと、改善のための提案など）

15:30～16:50 各グループの発表

16:50～17:00 まとめ

\*参加できない方は、[i.nagato@auhw.ac.jp](mailto:i.nagato@auhw.ac.jp)（理学療法学科 長門）まで、早めにお知らせください。

報告会班（通称：振り返り隊） 理学療法学科 長門、マイケル・スミス

## 参加者一覧

| 運行班 (付き添いグループ)          |             |                 |
|-------------------------|-------------|-----------------|
| 1                       | 保健大学        | 鈴木 孝夫           |
| 2                       | 保健大学        | 馬場 忠彦           |
| 3                       | 付き添い        | 稲葉 蘭            |
| 4                       | 付き添い        | 武田 蘭            |
| 5                       | 付き添い        | 浅井 菜摘           |
| 6                       | 付き添い        | 玉根 知果           |
| 7                       | 付き添い        | 植村 由美           |
| 8                       | 付き添い        | 本間 ゆかり          |
| 9                       | 付き添い        | 武田 聖奈 (学生リーダー)  |
| 10                      | 付き添い        | 川島 綾耶音          |
| 11                      | 付き添い        | 葛西 莉穂           |
| 12                      | 付き添い        | 中村 美里           |
| 13                      | 付き添い        | 児玉 菜緒           |
| 14                      | 付き添い        | 大場 鈴 (学生リーダー)   |
| 15                      | 付き添い        | 山田 優美           |
| 16                      | ハネト         | 見上 愛鈴           |
| 17                      | ハネト         | 大山 菜歩           |
| 18                      | ハネト         | 菅野 萌            |
| 19                      | ハネト         | 常岡 恵里奈          |
| 20                      | ハネト         | 花田 菜理           |
| 21                      | ハネト         | 紺野 彩希           |
| 22                      | ハネト         | 島田 和奏           |
| 23                      | ハネト         | 森 美咲            |
| 24                      | ハネト         | 奈良 千秋           |
| 25                      | ハネト         | 山道 千佳子          |
| 26                      | ハネト         | 松島 穂菜美 (学生リーダー) |
| 27                      | ハネト         | 長岡 瑞穂           |
| 28                      | ハネト         | 小山内 優衣          |
| 29                      | ハネト         | 赤井 はるか          |
| 30                      | ハネト         | 宮本 彩花           |
| 31                      | ハネト         | 伊藤 美佳           |
| 32                      | ハネト         | 山下 瑞貴           |
| 33                      | ハネト         | 坂本 晴香           |
| 34                      | ハネト         | 山口 明日香 (学生リーダー) |
| 35                      | ハネト         | 伊藤 安里紗          |
| 36                      | ハネト         | 中村 友紀           |
| 37                      | ハネト         | 高山 沙織           |
| 38                      | ハネト         | 三上 菜衣子          |
| 39                      | ハネト         | 荒谷 なつみ          |
| 40                      | ハネト         | 五十嵐 優夏          |
| 41                      | ハネト         | 田中 優惟           |
| 42                      | ハネト         | 岩城 友香           |
| 43                      | ハネト         | 川村 美香           |
| 44                      | ハネト         | 橋本 舞里亜          |
| 45                      | ハネト         | 鹿内 芽衣           |
| 46                      | 委員          | 戸沼 由紀           |
| 47                      | 委員          | 廣森 直子           |
| 48                      | 委員          | 小笠原メリッサ         |
| 49                      | 事務局         | 佐藤 知恵子          |
| のぼり・大うちわ・<br>拡声器・給水グループ |             |                 |
| 50                      | のぼり         | 深堀 満 (委員)       |
| 51                      | のぼり         | 藤田 修三 (保健大)     |
| 52                      | のぼり         | 出雲 祐二 (委員)      |
| 53                      | のぼり         | 岡田 淳史 (保健大)     |
| 54                      | のぼり         | 寺田 泰二 (保健大)     |
| 55                      | のぼり         | 川嶋 尚孝 (委員)      |
| 56                      | のぼり         | 岡嶋 雅昭 (保健大)     |
| 57                      | 大うちわ        | 高谷 憲 (保健大)      |
| 58                      | 大うちわ        | 今野 審 (保健大)      |
| 59                      | 給水車         | 笠原 達矢 (保健大)     |
| 60                      | 給水車         | 三浦 奈央           |
| 61                      | 給水車         | 坂野 奈央           |
| 62                      | 医療用リヤカー     | 白川 由梨果          |
| 63                      | 医療用リヤカー     | 成田 都和 (学生リーダー)  |
| 医療班                     |             |                 |
| 64                      | 渡部 一郎 (保健大) |                 |
| 65                      | 金野 将也 (保健大) |                 |
| 66                      | 角濱 春美 (保健大) |                 |

| 備品班          |                 |
|--------------|-----------------|
| 67           | 渋谷 知加 (学生リーダー)  |
| 68           | 中野 伽南 (学生リーダー)  |
| 69           | 岡崎 桃子           |
| 70           | 蝦名 環            |
| 71           | 佐藤 璃南           |
| 72           | 小嶋 季美香          |
| 73           | 石井 春香           |
| 74           | 佐藤 圭            |
| 75           | 渡部 明日翔          |
| 76           | 佐藤 愛梨           |
| 77           | 目黒 佳緒莉          |
| 78           | 川井 瑞葵           |
| 79           | 春日 七海           |
| 80           | 児玉 寛子 (委員)      |
| 食料班          |                 |
| 81           | 佐藤 千尋           |
| 82           | 櫻井 南奈           |
| 83           | 後藤 優和           |
| 84           | 鈴木 文子           |
| 85           | 鈴木 菜            |
| 86           | 長内 萌美           |
| 87           | 本間 郁美           |
| 88           | 壬生 美咲           |
| 89           | 久光 夕貴           |
| 90           | 菊池 由佳 (学生リーダー)  |
| 91           | 岩城 舞子           |
| 92           | 三浦 雪乃           |
| 93           | 小林 美貴 (学生リーダー)  |
| 94           | 堀井 綾子           |
| 95           | 熊谷 貴子 (保健大)     |
| 96           | 乗鞍 敏夫 (委員)      |
| 設営班          |                 |
| 97           | 松館 彩華 (副学生リーダー) |
| 98           | 工藤 愛美           |
| 99           | 越智 勇斗           |
| 100          | 下長根 瞳           |
| 101          | 前田 蒼津彦 (学生リーダー) |
| 102          | 町屋 昂            |
| 103          | 阿部 峻            |
| 104          | 荒澤 隼 (副学生リーダー)  |
| 105          | 小清水 兼太          |
| 106          | 長門 五城 (委員)      |
| 107          | マイケル・スミス (委員)   |
| 108          | 外崎 裕梨 (保健大)     |
| 109          | 岩淵 恒子 (保健大)     |
| 110          | 永澤 芽衣 (保健大)     |
| 111          | 八木橋 まなみ (保健大)   |
| 112          | 樋口 彩子 (保健大)     |
| その他          |                 |
| 吹奏楽サークル (9人) |                 |
| 書道サークル (8人)  |                 |

## ケア付きねぶた推進委員会の活動概要

- 第1回：5月19日（金） 9時～10時05分
- 第2回：6月10日（水） 16時～17時25分
- 第3回：7月 9日（木） 9時～10時15分
- 第4回：7月31日（金） 12時30分～12時45分
- 第5回：9月10日（木） 15時～16時

- ① ボランティア募集  
5月から7月までの間で、ポスター、チラシ、掲示板、会議での周知等を図り、ボランティアを募集しました。
- ② サークル発表の調整  
本学の文化系サークルに声掛けして、発表してもらうサークルの調整を行いました。
- ③ ボランティア養成講座の実施  
6月5日（金）に第1回ボランティア養成講座、7月18日（土）に第2回ボランティア養成講座を開催しました。
- ④ オリエンテーションの実施  
7月18日（土）11時から、ボランティア参加学生対象のオリエンテーションを開催し、しおりの配布・説明、班分け・役割の確認、連絡系統の確認等を行いました。
- ⑤ バスの手配  
ボランティアに参加する学生・教職員の移動手段を確保するため、大学のマイクロバスの他、三八五観光タクシーの協力により大型観光バスを手配し、ピストン移動などの調整を行いました。
- ⑥ しおりの作成  
学生ボランティアのしおりを作成し、スケジュール調整、移動経路等の調整、留意事項、緊急連絡先等を収めました。
- ⑦ 事前説明会の実施  
7月31日（金）12時から教職員対象、8月2日（日）10時30分からボランティア参加学生を対象とした事前説明会を開催しました。学生からは、事前に配布したしおりをもとに質問を受け付けたり、教職員には当日スケジュール等について説明しました。
- ⑧ 推進委員の参加  
推進委員が各班の担当者となり、円滑にボランティア活動を行えるよう、実行委員会と学生・教職員との橋渡し役をしました。また、各班に推進委員を配置することで、万一のときの連絡体制がとれるようにしました。
- ⑨ 学生の識別  
活動当日、たくさんのボランティアの中で本学の学生を識別できるよう、参加ボランティア学生全員に、本学オリジナルTシャツ、防水加工したステッカーを作成、配布しました。学生リーダーや本学役職者のシールを色別に分けました。

- ⑩ 医師・看護師の派遣  
実行委員会からの要請により、医師1名、看護師2名を派遣しました。
- ⑪ プライマリー・ケア担当学生  
実行委員会と協力し、プライマリー・ケアを担当する学生には、事前に参加者情報を確認させ、自分が担当する参加者さんについて知ってもらいました。
- ⑫ カメラマン  
本学が委託する広報カメラマンに撮影を依頼しました。
- ⑬ 活動を振り返る会  
8月4日（火）に、活動を振り返る会（報告会）を開催しました。



平成27年度  
ケア付きねぶた推進委員会

|         |                         |
|---------|-------------------------|
| 顧問      | 学長 上泉 和子                |
| 委員長     | 地域連携推進・国際センター長<br>出雲 祐二 |
| 学生部     | 学生部長 角濱 春美              |
| 看護学科    | 准教授 木村 恵美子<br>助教 戸沼 由紀  |
| 理学療法学科  | 助教 長門 五城<br>助教 マイケル・スミス |
| 社会福祉学科  | 准教授 児玉 寛子<br>講師 廣森 直子   |
| 栄養学科    | 講師 乗鞍 敏夫<br>講師 小笠原 メリッサ |
| 事務局     |                         |
| 教務学生課   | 課長 深堀 満                 |
| 地域連携推進課 | 総括担当 川嶋 尚孝<br>主事 佐藤 知恵子 |

発行：ケア付きねぶた推進委員会  
平成27年11月